

令和 8 年

2月20日(金) 13:00 - 16:40 · 21日(土) 09:30 - 16:20

こうち男女共同参画センター「ソール」

3F 大会議室ほか オンライン配信予定

参加無料 どなたでもご参加いただけます！

ゆたかな森と美しい清流に恵まれた高知県。

私たちの生命や暮らしに欠かせない「森と水のめぐみ」を守り、次の世代に受け継ぐため、たくさんの方がさまざまな活動に取り組んでいます。

「森と水の守り人たち」とその活動にエールを送る人たちが集い、語り合い、交流することを通じて、森林や流域の環境への理解を深め、課題と向き合い、地域の森と川の「これから」を考える機会とします。

ちよつと聞いてみるん？

こうちの 森と 川のこと



流域の明日のために

第一部

現状を知り、先進事例から学ぶ！

事例発表&基調講演

基調講演

「地域における自然資本管理のための協働のプロセスとデザイン」

徳島大学大学院社会産業理工学部研究部教授
高知県四万十川流域保全振興委員会会長 鎌田 磨人 氏

20日
Fri.

第二部

連携と協働に向けて交流しよう。

取組発表&クロストーク

21日
Sat.

あわせて開催！

期間中常時展示

活動発表ポスター展

想いを伝え、エールを送ろう。

出展ポスター募集中 1/13 まで！

主催：高知県

後援：四万十川総合保全機構、仁淀川流域交流会議、仁淀川清流保全推進協議会、高知市、物部川流域ふるさと交流推進協議会、物部川清流保全推進協議会

本事業は
高知県の森林環境税を
活用しています。



目次

1. ちょっと聞いてみん？こうちの森と川のこと～流域の明日のために～ とは	1
2. プログラム	2
3. 取組発表の進め方・クロストーク・配信について	3
4. ステージ発表 参加団体一覧	5
取組発表団体 概要・ポスター	6
5. ポスター発表参加団体一覧	47
ポスター	48

© 本資料は HP に掲載しています。

URL: https://www.shimanto.or.jp/?page_id=407402



本事業は
高知県の森林環境税を
活用しています



1. ちょっと聞いてみる？こうちの森と川のこと～流域の明日のために～

高知県は県土の84%が森林におおわれ、県内各地を豊かな清流が流れるなど、「森」と「水」に恵まれた地域です。森と水は、私たちの命や暮らしを支える大切な環境であり、これを守るために県内では多くの個人や団体がそれぞれの場所で活動を続けています。

このフォーラムは、そうした森林環境・水環境を守るさまざまな取組を持ち寄り、互いの良いところを知って認め合いながら、いま抱えている課題にも一緒に向き合う場です。立場や分野の違いをこえて相互理解を深め、助け合い・協力し合える関係をつくることで、豊かな森と水の環境を次の世代へ引き継いでいくことを目指します。

また、専門家や関係者だけでなく、一般の県民の皆さまにも取組に触れていただき、「森や水を守ること」を自分ごととして感じるきっかけになればと考えています。興味や関心を持つ人が増え、これからの活動に参加する輪が広がっていくことを期待しています。

【第一部】事例発表・基調講演

令和8年2月20日（金）午後1時から午後4時40分まで

【第二部】取組発表・クロストーク

令和8年2月21日（土）午前9時30分から午後4時20分まで

- 開催場所

こうち男女共同参画センター「ソーレ」3階大会議室ほか
（高知市旭町3丁目115番地）

- 主催

高知県

- 後援

四万十川総合保全機構、仁淀川流域交流会議、仁淀川清流保全推進協議会、
高知市、物部川流域ふるさと交流推進協議会、物部川清流保全推進協議会



2. プログラム 〈第二部取組発表・クロストーク〉

9:00	○ 開場・受付
9:30	○ 開会・趣旨説明
9:40 ・発表5分 ・質疑応答5分 発表が延びた場合トータル10分で収めます。	◎ 取組発表（グループ1）
	① 仁淀川お宝探偵団
	② 三嶺の森をまもるみんなの会
	③ 国土交通省 四国地方整備局 中村河川国道事務所
	④ ジンデ池生物研究所
10:20	小休憩（10分）
10:30	◎ 取組発表（グループ2）
	⑤ 野根川清流保全協議会
	⑥ 一般財団法人もりとみず基金
	⑦ 淡海の川づくりフォーラム実行委員会事務局
	⑧ 高知県友釣連盟
11:10	小休憩（10分）
11:20	◎ 取組発表（グループ3）
	⑨ 金谷光人
	⑩ 株式会社 KIRecub
	⑪ 高知県 衛生環境研究所
	⑫ 株式会社 佐竹ファーム
12:00	昼休憩（60分）
13:00	◎ 取組発表（グループ4）
	⑬ 鏡川水生生物研究会
	⑭ シマントモリモリ団
	⑮ れいほく地域集落活動センター連絡協議会
	⑯ ふる里の川 本宮川を取りもどす会
13:40	小休憩（10分）
13:50	◎ 取組発表（グループ5）
	⑰ 安田川を美しくする安田町民会議
	⑱ 物部川 21世紀の森と水の会
	⑲ 高知県四万十市まちづくり課
	⑳ いい川・いい川づくり実行委員会（事務局）
14:30	○ グラフィックレコーダーによる取組発表振り返り
14:40	休憩・会場転換（10分）

14:50	◎ クロストーク 1 当日くじ引きでグループ分けをして、壇上で意見交換します。 テーマは「繋がることでできそうなこと」。
15:20	小休憩（10分）
15:30	◎ クロストーク 2
16:00	○ 講評：瀧健太郎氏（京都大学防災研究所水資源環境研究センター教授）
16:10	○ お知らせ
16:20	○ 閉会 ※ 会場が 17 時に完全に閉まりますので、お忘れ物のないよう、お気をつけてお帰りください。

3. 取組発表の進め方・クロストーク・配信について

1. 取組発表の進め方について

- ・各団体の持ち時間は全部で 10 分です。
- ・発表 5 分、質疑応答 5 分ですが、発表時間が長くなった場合は、質疑応答の時間で調整します。
- ・経過時間のお知らせについて
 - 3 分経過でベル 1 回を鳴らします。
 - 4 分経過でベル 2 回を鳴らします。
 - 発表時間終了（5 分経過）でベル 3 回を鳴らします。
- ・発表を聞いて気づいた“活動のいいところ”、“取り組みの面白いところ”、“すごいと思った工夫”など、活動している団体さんも気づいていない「これって実はすごい」を見つけ出すつもりで聞いてもらえると嬉しいです。気づいたことをぜひ発言してください。

2. クロストークについて

ステージ発表の団体を半分に分けて、登壇者同士で意見交換を行います。前半後半のグループ分けは、各団体のステージ発表後に、くじ引きで決定します。

クロストークで登壇するみなさんをお願いしたいことはただ一つ。化学反応を起こすために、「自分たちの話ではなく、他の団体の話をする。」ということです。自分達を取り入れられそうな他の団体のいいところ、気づきをもたらえたこと、純粹に面白いと感動したことなど、今日この場だからこそ生まれるものを大切にできる場にしたいと思います。

☆ファシリテーター 瀧 健太郎先生（京都大学防災研究所水資源環境研究センター教授）

7月7日“川の日”生まれの、全国の川を知る川のスペシャリストです。滋賀県庁で18年、河川・流域政策の実務を担い、今は流域治水や自然再生を研究。国内外の川と人との出会いから「地域に愛される川こそいい川」が信条。流域でつながる仲間づくりも後押ししてくれる、頼れる川好きです。全国の流域を知る現場目線から、こうちの森と川のポテンシャルを存分に引き出してくださいと思います。

3. YouTube Live 配信について

本日のフォーラム中の様子は YouTube Live で配信しております。また、後日 YouTube でアーカイブとして公開する予定です。アーカイブ配信にあたり配慮が必要な方は事務局までお申し出ください。

配信 URL : https://www.shimanto.or.jp/?page_id=407394



1. ステージ発表 参加団体一覧

- | | |
|---------------------------|----------|
| ① 仁淀川お宝探偵団 | (p 6・7) |
| ② 三嶺の森をまもるみんなの会 | (p 8・9) |
| ③ 国土交通省 四国地方整備局 中村河川国道事務所 | (p10・11) |
| ④ ジンデ池生物研究所 | (p12・13) |
| ⑤ 野根川清流保全協議会 | (p14・15) |
| ⑥ 一般財団法人もりとみず基金 | (p16・17) |
| ⑦ 淡海の川づくりフォーラム実行委員会事務局 | (p18・19) |
| ⑧ 高知県友釣連盟 | (p20・21) |
| ⑨ 金谷光人 | (p22・23) |
| ⑩ 株式会社 KIRecub | (p24・25) |
| ⑪ 高知県 衛生環境研究所 | (p26・27) |
| ⑫ 株式会社 佐竹ファーム | (p28・29) |
| ⑬ 鏡川水生生物研究会 | (p30・31) |
| ⑭ シマントモリモリ団 | (p32・33) |
| ⑮ れいほく地域集落活動センター連絡協議会 | (p34・35) |
| ⑯ ふる里の川 本宮川を取りもどす会 | (p36・37) |
| ⑰ 安田川を美しくする安田町民会議 | (p38・39) |
| ⑱ 物部川 21 世紀の森と水の会 | (p40・41) |
| ⑲ 四万十市まちづくり課 | (p42・43) |
| ⑳ いい川・いい川づくり実行委員会 (事務局) | (p44・45) |

所属団体名 (ふりがな)	仁淀川 お宝探偵団
ホームページ URL	http://niyodoriver.com
活動中の山や 水辺の名称	仁淀川水系
ふだんの活動内容 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ イベント開催 ・ 水質調査 ・ 出前授業
発表内容	<p style="text-align: center;">発表のポイントを以下に 100~300 字程度でご記入ください。</p> <p>持続可能な未来に向けて 若い人たちに参加を呼び掛けたいです。</p>
発表のキーワード (3つ)	
① 遊ぶ! ② 知る! ③ 伝える!	
来てもらいたいイベント、活動があれば書いてください	大学や専門学校とのコラボ



所属団体名 (ふりがな)	三嶺の森をまもるみんなの会
ホームページ URL	http://sanreiminnanokai.web.fc2.com/
活動中の山や 水辺の名称	剣山山系三嶺山域、物部川上流域 香美市
ふだんの活動内容 (箇条書き)	<p>ニホンジカの食害によって劣化している三嶺山域の自然生態系の保全を目的として以下の活動を行っている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ボランティアによる防鹿柵、樹木ガードの設置及び植生再生マットの敷設。 2. 防鹿柵内外の植生のモニタリング調査、植生回復のための移植実験、崩壊地調査、定点観察・写真記録。 3. 物部川流域の小学校、こどもエコクラブ等を対象とした、シカ食害の現状の観察とブナやミズナラなど主要構成種の植樹、植生管理などを通じた環境教育活動。 4. シンポジウム、公開報告会、ミニ講演会などによるシカ食害の現状に関する情報共有と対策の検討。 5. 本やシンポジウム資料集の発行、保全活動啓発のための DVD 作成。
発表内容	<p>発表のポイントを以下に 100~300 字程度でご記入ください。</p> <p>物部川源流域の剣山山系三嶺山域では、2000 年以降、徐々にニホンジカの食害が目立ち始め、ブナなどの落葉広葉樹が優占する自然林を中心に急速に被害が進行した。森林生態系の劣化は土壌侵食や斜面崩壊を誘発し、物部川への土砂の流失が加速した結果、河川生態系への深刻な被害をもたらしている。その現状を知ってもらい、自然生態系の崩壊を防ぐために行っている当会の活動とそれを継続していくことの重要性について発表する。</p>
発表のキーワード (3つ)	
<p>① ニホンジカ食害 ② 自然生態系保全 ③ 環境教育</p>	
来てもらいたいイベント、活動があれば書いてください	防鹿柵の設置とメンテナンス作業、現場における環境教育
※ご記入いただきました個人情報は、ワークショップ以外の目的では使用いたしません。	



三嶺の森をまもるみんなの会

設立の背景

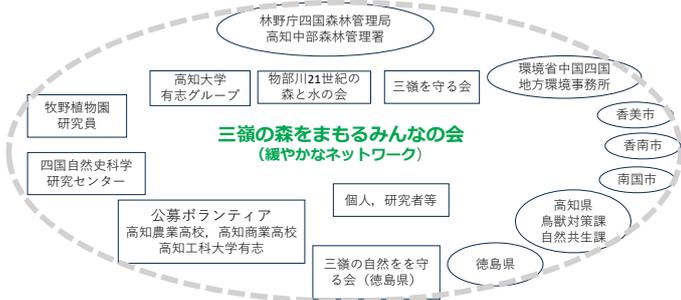
シカの食害によって、高知県下最大の貴重な自然林、三嶺（1894m・剣山系）の森は傷つき痛んでいます。激しい被害を受けた2005年～2012年には稜線部のササ原の大半と樹木の7割までが深刻な被害に遭いました。「シカの管理捕獲」によって新たな被害は減少してきましたが、原生的樹林内の林床の裸地化・荒廃はひどい状態が続き、特にスズタケと稚樹・灌木類が壊滅したことにより、森林生態系の衰退と土砂流出、傾斜地の崩壊が深刻化しています。

私たちは、「激しい被害期」に危機感を抱き、保護と再生を目指すNGO、NPOが集結して、2007年8月に「三嶺の森をまもるみんなの会」を設立しました。

活動内容

1. ボランティアによる防鹿柵、樹木ガードの設置及び植生再生マットの敷設。
2. 防鹿柵内外の植生のモニタリング調査、植生回復のための移植実験、崩壊地調査、定点観察・写真記録。
3. 物部川流域の小学校、子どもエコクラブ等を対象とした、シカ食害の現状の観察、ブナやミズナラなど主要構成種の植樹、植生管理などを通じた環境教育活動。
4. シンポジウム、公開報告会、ミニ講演会などによるシカ食害の現状に関する情報共有と対策の検討。
5. 本やシンポジウム資料集の発行、保全活動啓発のためのDVD作成。

三嶺の森をまもるみんなの会の組織図



厳冬期にもかかわらず稜線に近い積雪の少ない場所にササを求めて集まっているシカ



背丈を超えるスズタケに覆われた登山道の食害前（左、2003年）と後（右、2023年）。



2007年に全面枯死したカヤハゲのミヤマクマザサ群落。左は2002年、右は2008年撮影。



土砂流失を防ぐための植生再生マット敷設作業



防鹿柵 設置作業と柵内に復活した植生（左上）



シカによる樹皮剥ぎとそれを防ぐためのラス巻き（樹木ガード）



環境教育 シカ食害が森の植物の与える影響について説明を受ける。樹皮剥ぎの状況（右上）の観察とブナやミズナラの植樹と稚樹を守る柵の設置（右下）。



調査 林床植生の回復試験（左）と防鹿柵内の植生のモニタリング調査（右）。

所属団体名 (ふりがな)	こくどうつうしょう しこくちほうせいびきょく なかむらかせんこくどうじむしょ 国土交通省 四国地方整備局 中村河川国道事務所
ホームページ URL	https://www.skr.mlit.go.jp/nakamura/
活動中の山や 水辺の名称	渡川水系 四万十川、後川、中筋川
ふだんの活動内容 (箇条書き)	・ 四万十川における河川事業 (築堤事業、南海トラフ巨大地震対策、環境事業、水辺整備事業、維持管理)
発表内容	<p>発表のポイントを以下に 100~300 字程度でご記入ください。</p> <p>平成 14 年より国土交通省中村河川国道事務所で開催している四万十川自然再生事業においては、四万十川に現在も残る自然を保全し、より良好な自然環境へと再生するとともに、人と自然とが共生できていた昭和 40 年代の四万十川の原風景の保全・再生を目指しています。</p> <p>四万十川自然再生事業は、『ツルの里づくり』、『アユの瀬づくり』、『魚のゆりかごづくり』の 3 つの事業に区分され、『ツルの里づくり』はツル達が安心して越冬できる里づくりを、『アユの瀬づくり』はアユの産卵場となる瀬が広がる昔ながらの河原の風景の再生、『魚のゆりかごづくり』は四万十川の生き物を育む汽水域の浅場の再生を目的に事業を実施しています。</p>
発表のキーワード (3つ)	
	① ツルの里づくり ② アユの瀬づくり ③ 魚のゆりかごづくり
来てもらいたいイベント、活動があれば書いてください	



四万十川自然再生事業

ツルの里づくり、アユの瀬づくり、魚のゆりかごづくりの3事業で人と自然が共生できていた四万十川原風景の保全・再生を目指します。



国土交通省四国地方整備局
中村河川国道事務所

ジンデ池の生物多様性を未来に繋ぐ保全活動

ジンデ池生物研究所

◇ジンデ池とは？

高知県須崎市安和にある農業用ため池
大正時代につくられ、現在は使われていない
防災重点ため池に指定され、廃止計画が立っていた



◇活動の経緯

2018年 西日本豪雨をうけ、ジンデ池が防災重点ため池に指定される
2019年 池の存続を市に訴えるため、生物調査を開始
2020年 市長との懇談会を経て、池の存続および貯水工事が決定
2021年 ジンデ池生物研究所を発足させ、現在に至る



ジンデ池生物研究所
発足メンバー

◇ジンデ池生物研究所の取り組み

ジンデ池生物研究所は中学生、高校生、大学生が中心となって活動する任意団体
生物調査、保全活動、環境教育を主な活動の柱としている

○生物調査

月1回の定例調査
データの蓄積
池の生物多様性の解明



○保全活動

池とその周りの環境整備
池の植物や泥の引き上げ、
間伐、ゴミ出しなど



○環境教育

年に数回セミナーを開催
地元の小学校とも連携し
出前授業なども行う



◇調査

総確認種数218種 (2019年～2025年2月)
高知県レッドデータブック掲載種：13種 (ミナミメダカなど)
外来種：3種 (ラミーカミキリ、クサガメ、メリケンコザラ)
特定外来生物は確認されていない



ミナミメダカ

◇課題

メンバーの進学などに伴って活動（特に調査）の継続が年々難しくなっている

**現在、月1回の生物調査に参加して下さるメンバーを募集しています！
ジンデ池生物研究所のホームページやSNSからご連絡ください！**

メンバー募集中！



◇情報発信

ホームページ・SNSで活動やイベントの告知を行っています
活動にご興味がある方はぜひメールやDMでご連絡ください



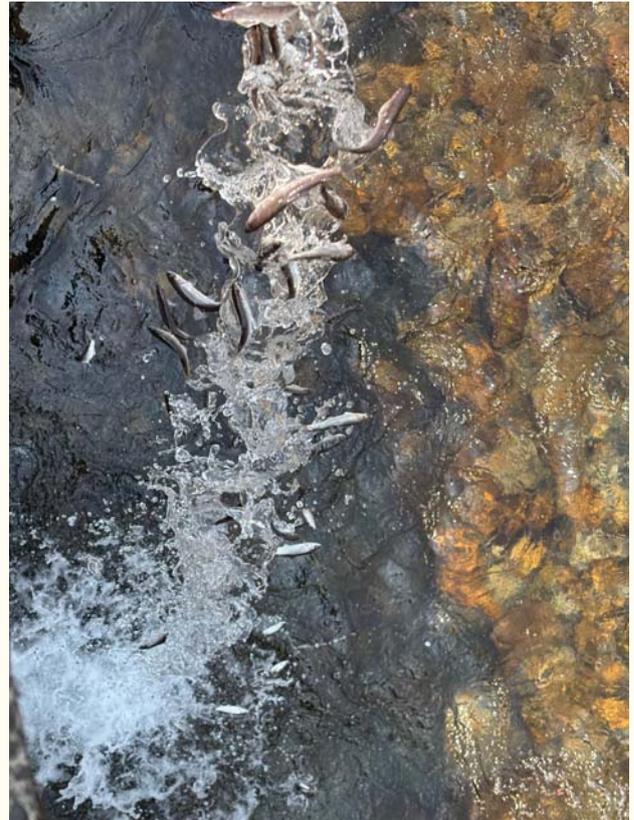
ホームページ



Facebook



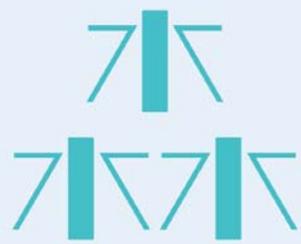
Instagram



「川と生きる誇り」は、人々が自然との調和を大切にしながら、川の恩恵を享受し、地域社会を豊かにしていく姿勢を表しています。川は長い間、生活の基盤として重要な役割を果たしてきました。農業用水の供給や漁業資源の提供、さらには観光資源としての価値など、様々な形で人々の生活を支えてきました。川沿いの地域では、世代を超えて受け継がれてきた文化や伝統が息づいており、それらは川との深い結びつきの中から生まれたものです。このような背景から、川と共に生きることは、単なる生活の手段以上の意味を持ち、誇りとするに値するものです。自然を尊重し、川の持続可能な利用を心がけることは、未来の世代に豊かな環境を残すための責任でもあります。

所属団体名 (ふりがな)	いっぽんざいだんほうじん 一般財団法人 もりとみず基金
ホームページ URL	https://www.moritomizu.org/
活動中の山や 水辺の名称	吉野川早明浦ダム水系 嶺北地域 (大豊町、本山町、土佐町、大川村)
ふだんの活動内容 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 森林経営及び管理の基盤づくり：森林の保全活用に向けた経営計画の策定、ICT 等インフラ整備 ・ 森林関連産業促進：林業者人材育成、担い手確保支援、流域人材育成、販路拡大等 ・ 環境保全・活用：上下流の関係人口形成、シチズンサイエンスの促進、Jクレジット活用支援等 ・ 調査研究：水源域と利水域の持続可能な発展に向けた調査・研究 ・ 流域連携の促進：水源域の嶺北地域と、利水域の高松市等との連携の促進 ・ 民間企業等と連携した資金循環の仕組みづくり
発表内容	<p>発表のポイントを以下に 100～300 字程度でご記入ください。</p> <p>「森と水は、ひとつに」 一般財団法人もりとみず基金は、高知県嶺北地域（大豊町・本山町・土佐町・大川村）と、香川県高松市の共同出資で設立されました。「四国の水がめ」早明浦ダムを挟んで水源域と利水域に位置する両地域の連携のもと、双方の持続可能性を高める「地域循環共生圏」を形成していくことを目指しています。本ワークショップでは、もりとみず基金の「森の当事者」を増やす活動についてご紹介します。</p>
発表のキーワード（3つ）	
①地域循環共生圏 ②流域連携・上下流連携 ③早明浦ダム	
来てもらいたいイベント、活動があれば書いてください	





森と水は、ひとつに。

もりとみず基金

一般財団法人もりとみず基金は、高知県嶺北地域（大豊町、本山町、土佐町、大川村）と香川県高松市の共同出資で設立されました。

「森の当事者」を増やすための中間支援組織として活動しています。

GISやセンサーを用いて、「山の姿」の「可視化」に取り組んでいます。

また小規模な民有林の整備を進めるため、新たな契約スキームの開発に取り組んでいます。

森のステークホルダー

山の整備に向けて「林業人材」や「流域協働人材」の人材育成・採用支援・活動支援・情報発信に取り組んでいます

森の担い手

森と水をつなぐ

#01 PROJECT

森と暮らしをつなぐ

#04 PROJECT

人と資金の循環

#03 PROJECT

#02 PROJECT

都市と地域をつなぐ

水循環の解析やシチズンサイエンス（市民科学）の促進、100円ショップグッズを用いた「山の言葉の翻訳」

様々なアプローチで流域を繋げています

森の当事者をつなげる

様々な民間企業との連携を進めながら、森林を保全することが新たな「経済的価値」に繋がるような、顧客開発サービス開発に取り組んでいます。

森の顧客

【お問合せ】 電話：0887-70-1310 メール：contact@moritomizu.org

淡海の川づくりフォーラム

淡海の川づくりフォーラム実行委員会事務局
(滋賀県 土木交通部 流域政策局)

R7年度グランプリ団体 活動写真
～北川を遊べる川にする有志の会～

淡海の川づくりフォーラムとは・・・

淡海の川づくりフォーラムは、滋賀県流域治水条例第34条に基づく県民相互連携の取り組みであり、川や水辺にまつわる活動を実践されている皆さんとともに、“川やびわ湖、水辺と共生する暮らし”、“川やびわ湖、水辺と私たちのいい関係”について議論を深める公開選考方式のワークショップです。受賞団体を決めること(順位付け)はあくまでも手段であって、議論と交流を通じて、お互いの活動の「よいところ探し」をして、誉めあい、元気になることが目的です。

フォーラムの1日の流れ



全体発表

1団体3分で参加全団体が活動をアピール！



テーブル選考

参加団体がグループに分かれて議論をして
全体討論に推薦する活動を決めます。



全体討論

総合コーディネーター・選考員を中心に、
公開選考によりグランプリ等を決定します！



復活選考

ポスターセッションによりテーブル選考では十分に
採れなかった活動をさらに深掘りします。

選考員の推薦により
全体討論へ！

- ・グランプリ・準グランプリ
- ・マザーレイクゴールズ賞
- ・山紫水明賞
- ・応援の花咲いた賞



まとめ・振り返り

フォーラム実行委員より、
議論のまとめをおこないます。



表彰式

表彰式の様子



テーブル選考で十分にアピールできなくても、
“さらに”と光る活動には・・・

グラフィックファシリテーション

淡海の川づくりフォーラムでは各団体の発表や活発な議論を『可視化』することによる議論の整理や更なる活性化を目的として、イラストを交えながらその場でまとめる“グラフィックファシリテーション”を行っています。

淡海の川づくりフォーラムは川と水辺を愛する人の交流の場です。ぜひ、ご参加をお待ちしています！

★淡海の川づくりフォーラムホームページ★

【県HP】 <https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/kendoseibi/kasenkoan/338580.html>

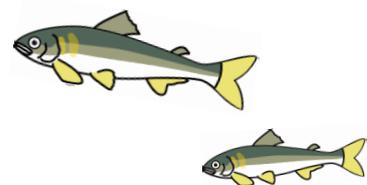
【facebook】 <https://www.facebook.com/ShigaRiverForum>

★YouTubeで当日の様子アーカイブ配信を行っています★

【YouTube】 <https://www.youtube.com/live/3iClfT2PSsQ>



所属団体名 (ふりがな)	こうちけんともつりれんめい 高知県 友釣 連盟
ホームページ URL	
活動中の山や 水辺の名称	高知県の河川のアユ釣りクラブの連合会 各河川の産卵保護や放流事業へのボランティア
ふだんの活動内容 (箇条書き)	年間 2 回のアユ釣り大会の開催 大会利用河川の清掃 初心者教室の開催 産卵場の整備のボランティア 清流めぐり利き鮎会の開催 メーカー釣り大会の誘致や開催協力
発表内容	<p style="text-align: center;">発表のポイントを以下に 100～300 字程度でご記入ください。</p> <p>「清流めぐり利き鮎会」を開催する本来の目的は、鮎の美味しさを競うための競技会ではありません。今から 28 年前 高知県の 13 河川の釣り人が集まり、河川環境の悪化に悩んでしました。どうしたら河川環境は良くなるのか？・・・。 当時は今のように河川環境保護が重視されていません、そのため河川工事があるたびに豊かな自然が無くなっていました。この河川現状を町や都会の人に見てもらえれば、河川環境保護が必要だと思う人が増えるのではないかと、しかし、都会の人がわざわざ河川を見に来るのは難しい、そこで川の方を都会に近づける事にした。鮎は河川のコケを食しているため、河川環境そのものが鮎の味となっている。その鮎を食べ比べて河川環境の大切さを考えてもらいたいと、清流めぐり利き鮎会を開催しています。</p>
発表のキーワード (3つ)	
①河川環境の保護 ②河川のブランド化 ③釣仲間の増加	
来てもらいたいイベント、活動があれば書いてください	清流めぐり利き鮎会





高知県友釣連盟と利き鮎会



つり人が 河川の枠を超えて、

全員で河川のためにできる事をする

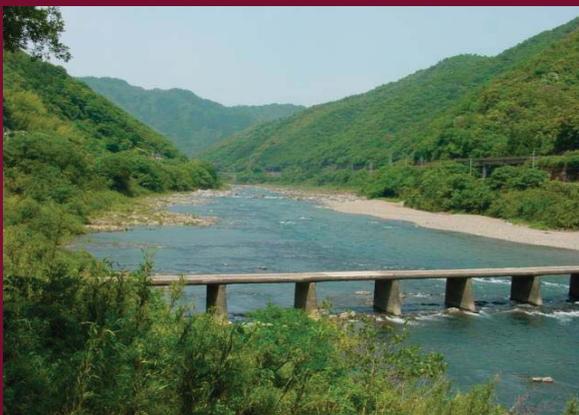
高知県友釣連盟



高知県友釣連盟と利き鮎会

清流めぐり利き鮎会

高知の釣り人が起こした



河川環境改善への小さな波紋が
今後も続けてい
けますことを信じ
ています

多くのみなさまのお力添えをお願いします。

川と 鮎釣りを愛する人 高知県友釣連盟 一同
連盟 |

所属団体名 (ふりがな)	かなたに みつひと しまんとがわせいぶぎょきょう 金谷 光人 (四万十川西部漁協)
ホームページ URL	
活動中の山や 水辺の名称	四万十川
ふだんの活動内容 (箇条書き)	<p>○令和2年から川の状況の調査及びボランティア</p> <p>○四万十財団・国土交通省・高知県・市・町・四万十川漁業振興協議会 ・高知県四万十川流域保全振興委員会 ・四国電力・愛媛県広見川流域市町 他 関係機関と意見交換会。</p> <p>○学識者・有識者による学習・指導。フォーラムに参加。</p> <p>○四万十財団主催の勉強会・イベントのお手伝い。</p>
発表内容	<p>発表のポイントを以下に100~300字程度でご記入ください。</p> <p>令和2年に四万十川西部漁業協同組合の代表理事に就任し、組合員との意見交換を重ねる中で、「川が悲鳴をあげている」「災害が起きている」という切実な声を多く聞きました。事態を重く受け止め、台風前後の四万十川および広見川の水中調査を実施したところ、川底の著しい汚れが確認されました。さらに川原を掘削すると、砂利層が目詰まりを起こし、伏流水が湧かず、川本来の自浄作用が失われていることが分かりました。改善策として川原を重機で掘削・攪拌した結果、水・酸素・微生物の循環が生まれ、汚れの分解や水温低下が確認されました。掘削は西土佐地域で8か所実施し、微生物については専門機関による継続調査を行っています。河川環境悪化の背景には、濁水、農業排水、ダム、生活排水、森林環境の変化など複合的な要因があると考えています。砂利の減少により魚の生息環境も悪化し、生態系の異変も見られます。今後も現場での実践と科学的調査の両面から、四万十川の再生に取り組んでいきます。</p>
発表のキーワード(3つ)	
	①現状と課題 ②実践 ③推測される原因
来てもらいたいイベント、活動があれば書いてください	現在の四万十川のありのままの現状を直接見ていただき、現在行っている重機による掘削作業の様子や、その施工によってどのように改善、変化したのか、確認していただければ幸いです。



四万十川の河床環境改善 リッパー掘削

橘大橋下流(西土佐橋～津野川)

着工前



完成

令和8年1月施工



金谷 光人

所属団体名 (ふりがな)	かぶしきがいしゃきりかぶ 株式会社 KIRecub
ホームページ URL	https://kirecub.jp/
活動中の山や 水辺の名称	四万十川流域
ふだんの活動内容 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・高知県梶原町を拠点に、造林・育林を軸とした森林管理事業を展開 ・森林整備を通じた、水源涵養・土砂災害防止など流域環境の保全への貢献 ・林業を「一次産業」で終わらせない、林業×異業種・異分野連携の推進 ・企業・団体と連携した、森林資源を活用した商品・体験・プロジェクトの共創 ・森林をフィールドにした、環境教育・人材育成・学びの場づくり ・地域おこし協力隊 OB や多様な人材が、地域に定着し活躍できる仕事づくり ・森と人、都市と地域をつなぐ、「関係人口」を生み出す取り組み ・森林の価値を「見える化」し、地域経済と自然保全を両立させる仕組みづくり
発表内容	<p>発表のポイントを以下に 100～300 字程度でご記入ください。</p> <p>株式会社 KIRecub は、高知県梶原町を拠点に、造林・育林を軸とした森林管理に取り組む林業ベンチャーです。戦後植林された森林が伐採期を迎える一方、再造林が行われず放置される山林が増えています。私たちは、そうした山に再び木を植え、手を入れることで、水源涵養や土砂災害防止、生物多様性の保全など、流域全体を支える森づくりを進めています。</p> <p>また林業を核に、教育・観光・福祉・音楽など異業種と連携し、森林を「守る対象」から「関わるフィールド」へとひらく挑戦を続けています。『森の未来は人の未来』その想いのもと、林業を特別な仕事にせず、誰もが関われる“みんなの林業”として、人と森が日常的につながる社会の実現を目指しています。</p>
発表のキーワード（3つ）	
①再造林・森林管理 ②林業×異業種連携 ③人材・関係人口の循環	
来てもらいたいイベント、活動があれば書いてください	<p>開催日 令和 8 年 5 月 24 日（日）</p> <p>『梶原太郎川公園森林フェスティバル』</p> <p>梶原町太郎川公園にて、年 2 回開催されている「森林フェスティバル」をご紹介します。</p> <p>森林や自然を身近に感じながら、世代や立場を越えて交流できるイベントです。当日は弊社も参加し、木製品の販売や森林をテーマにしたワークショップを行う予定です。森と人がつながるきっかけの場として、ぜひ多くの方に足を運んでいただけたら嬉しいです。</p>



森林と生きる、未来を育てる。



KIRecub

【きりかぶ】

We envision thriving, biodiverse forests a century from now, and we are committed to creating a society where forests and people are deeply connected.

MISSION

森林と人がつながる
社会を創造する。

誰もが森林と関わり、恩恵を受けながら暮らせる未来へ。
森林と人との距離が縮まり、自然とのつながりが日常に息づく社会を目指します。
森林が特別な場所ではなく、生活のなかで当たり前前に感じられる存在となり、都市に暮らす人も、地方に住む人も、それぞれの形で森林とつながる。そんな未来の風景を、私たちは描き続けています。

VISION

未来の森林を創るため、
植栽放棄地に新たな命を育む。

戦後植えられた木々が伐採期を迎える中、植え直されないまま放置された山が全国で増え続けています。
森林は、本来、世代を超えて育まれるべき地域の財産であり、未来への贈り物です。
私たちは、そうして山々に再び木を植え、手をかけ、命をつなぎ、次の世代に豊かな森林を残す取り組みを続けています。
それは、人と森林が再びつながり、地域の暮らしと自然が調和する未来を築くための一歩です。

VALUE

つながりから
生まれる革新。

林業を核に、異業種、異分野とのコラボレーションを積極的に仕掛け、これまでにない働き方や価値を創出していきます。
境界を超える挑戦こそが、林業の未来を切り拓くと私たちは信じています。
この挑戦は、“みんなが加わる林業”への一歩です。

造林・育林、育苗、森の教育、木製品

株式会社 KIRecub (きりかぶ)

〒785-0610 高知県高岡郡梶原町梶原 1455 番地
<https://www.kirecub.jp/>



オフィシャル web



インスタ



Mori wo Aruku



オンラインショップ



インスタ

所属団体名 (ふりがな)	こうちけんえいせいかんきょうけんきゅうじょ 高知県 衛生環境 研究所
ホームページ URL	https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130000/130120
活動中の山や 水辺の名称	四万十川、仁淀川、物部川
ふだんの活動内容 (簡条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「高知県四万十川の保全及び流域の振興に関する基本条例」に基づく「清流基準」の水質調査 ・ 仁淀川及び物部川における水質調査 ・ 小・中学生を対象とした環境学習
発表内容	<p>発表のポイントを以下に 100～300 字程度でご記入ください。</p> <p>高知県は「高知県四万十川の保全及び流域の振興に関する基本条例」を制定し、四万十川の清流保全に取り組んでいる。本条例に基づき、環境基本法に基づく環境基準に加えて「清流度」「窒素」「りん」「水生生物（指標生物 40 種）」の 4 項目による清流基準を設定し、各調査地点における基準値により水質評価を行っている。</p> <p>また、仁淀川については、四万十川と同様の調査方法で水質調査を行い、物部川については、独自の水質調査手法（簡易ろ過測定法等）により水質調査を行っている。</p> <p>今回の発表では、当所が考案したこれらの調査手法を紹介するとともに、県内の小・中学生を対象とした環境学習の取組みについても報告する。</p>
発表のキーワード（3つ）	
①清流基準 ②水質調査 ③環境学習	
来てもらいたいイベント、活動があれば書いてください	



高知県衛生環境研究所の取組み

四万十川・仁淀川・物部川における水質調査について

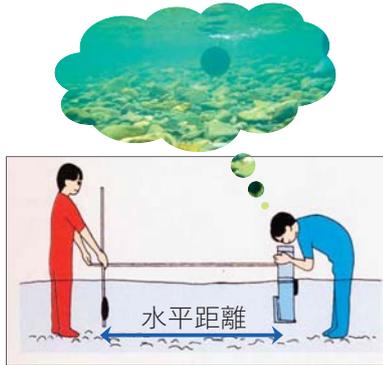
高知県は「高知県四万十川の保全及び流域の振興に関する基本条例」を制定し、四万十川の清流保全に取り組んでいる。本条例により、環境基本法の水質環境基準に加えて「清流度」「窒素」「りん」「水生生物（指標生物40種）」に関する清流基準を設定し、各調査地点における基準値により水質評価を行っている。

また、仁淀川については、四万十川と同様の調査方法で水質調査を行い、物部川については、独自の水質調査手法（簡易ろ過測定法等）により水質調査を行っている。

清流度（四万十川・仁淀川）

●測定は、雨が降った後4日以上経ち、川の状態が安定している日を選び、水深0.3mから1.0mまでの平瀬で行う。

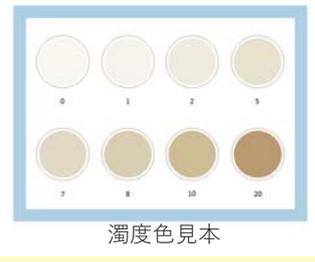
●二人一組で実施。一人はブラックディスクを河川の水面に垂直になるように水中に入れ、水平に移動させる。もう一人は、清流度計で水中のブラックディスクを目視し、これが見えなくなる時の清流度計とブラックディスクの間の水平距離を測定する。



簡易ろ過測定法（物部川）

●ろ過器にガラス繊維ろ紙を挟み、500mLの河川水を通水し、ろ紙を自然乾燥した後、濁度色見本（右図）と比較し判定する。

※濁度色見本の5は透視度100cmに相当



清流基準について
（高知県自然共生課HP）



高知県衛生環境研究所報
調査結果等を掲載



高知県環境研究センター（現高知県衛生環境研究所）所報
平成28年度（第33号）「物部川における新しい水質調査の試み」



環境学習について ～小・中学生が調査手法を体験～

県内の小・中学生を対象に、当所が考案した河川の水質調査手法である「清流度測定」や「簡易ろ過測定法（主に物部川水域）」、必要に応じて水生生物調査等を組み合わせた環境学習を行っています。（※環境学習の受付窓口は高知県自然共生課です。学校側の希望内容に応じて講師を決定しています。）

環境学習スケジュール（一例）

内容
座学（仁淀川・水質調査について）
移動（中仁淀沈下橋へ徒歩で移動）
河川敷でのデモ・説明
2班に分かれて実施
・清流度測定
・水生生物採取・同定
結果発表
・清流度の測定結果
・採取された指標生物（40種類）をもとに水質階級を判定



【清流度測定】

仁淀川に入り、ブラックディスク・清流度計を用いて清流度を測定！

【水生生物調査】

仁淀川で採取した水生生物を「水生生物の見分け方」が記載された下敷きを用いて分類・観察！



「水生生物の見分け方」下敷き

条例で県独自に指標生物40種類を設定し各指標生物にスコア値を付与



【透視度測定】

ペットボトルに用意していた仁淀川と他の河川水を用い、透視度比較！（屋内授業の様子）

【簡易ろ過測定】

河の内川（物部川支川）の水を簡易ろ過器に通水し、ろ紙の色を色見本と比較して、濁度を評価！



所属団体名 (ふりがな)	株式会社 佐竹ファーム	
ホームページ URL		
活動中の山や 水辺の名称	四万十町七里地区	四万十川流域
ふだんの活動内容 (箇条書き)	NBS（ネイチャーベースドソリューションズ）という自然環境とともに自然環境を生かしてゆく考え方を取り入れて、現状の慣行栽培生姜栽培で発生する汚水を直接四万十川に流すことの減少させることで四万十川の水質環境や自然環境を復元出来るように、浄化作用のエリアを造成し、検証してゆく事である。	
発表内容	<p style="text-align: center;">発表のポイントを以下に 100～300 字程度でご記入ください。</p> <p>1、 始めたきっかけ 現状での生姜栽培では四万十川に汚水を流している事の事実を認め、その解決に向けて、試験圃場を造成して始めるようになった事。</p> <p>2、 期待する効果 実際に生姜を栽培し、その排水する場所にビオトープと似た形状の穴を3箇所造成し、生姜の定植場所から出る汚水を受け止め、浄化作用をさせる事で汚水を直接排水する事の減少効果を得る目的で取り組んでいる。</p> <p>3、 この取り組みの重要課題と理解協力 この「NBS」を取り入れながら行う事業では、圃場での試験実施者も必要ですが、継続的な科学的視点での検証が重要になってくる点や、他地域での実施、検証も含めて予算が必要になってくる点を考えて推進してゆく事。</p>	
発表のキーワード（3つ）		
	① 自然環境	② 農業と環境循環
		③ 地域理解を広げる
来てもらいたいイベント、活動があれば書いてください		



NBSと共に向き合う地域環境の未来

株式会社佐竹ファーム 佐竹 孝太

40年続く生姜農家、しかしー

- ・四万十川のほとりで、川の水を引いて育てる生姜
- ・土壌の消毒、農薬散布をしながらの栽培
 - 散布時に呼吸マスクをしても、目の痛みや呼吸困難になるほど咳き込んでしまうことも...
- ・四万十川を汚してしまっているのではないか...



「現在の栽培方法とは違うアプローチ、技術が必要」

湿地をつくる、という選択

20aのショウガ圃場内に2aの湿地帯を造成
圃場から出る農業排水を一旦湿地帯に引き込み、植物やバクテリアや自然素材の構造物によって、段階的に浄化される仕組みを創り出す



POINT!

圃場から湿地まで
約3%の勾配をつけた
深さは約30cm
最後は砂利層に



湿地は怎么样了か？



3/28: 少雨で濁水が溜まる



4/12~13: 2日間の少雨、濁水が溜まる



5/24: 激しい雨で満水に、四万十川へ溢れる

現状・課題

- ・水生植物が少なく、降雨時に水が濁ってしまう
- ・少雨では砂利層の湿地が浸透層として機能しているが、大雨等の急激な雨量には対応できていない

改善への動き

- ・水生植物の採取、種子の散布で対応
- ・湿地維持のため断続的に取水し、水の循環を創出
 - ↑ 自身が行う水稻栽培の排水を活用するよう検討

地域の声

「いい取り組みで頑張ってるね！」

「子どもたちにきれいな四万十川を残したい」

「一緒に川を守っていこう！」

環境循環の取り組みの価値を、生姜の価値へ

商品価値に載せることで、資金調達につなげる
→ 持続的な取り組みへ

所属団体名 (ふりがな)	かがみがわすいせいせいぶつけんきゅうかい 鏡川水生生物研究会
ホームページ URL	
活動中の山や 水辺の名称	高知市 鏡川付近
ふだんの活動内容 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鏡川での魚類や水生昆虫などの調査採集 ・ 観察会やイベントの開催 ・ 普及啓発活動
発表内容	<p>発表のポイントを以下に 100~300 字程度でご記入ください。</p> <p>鏡川は、高知市を流れる 2 級河川でありながら、高い生物多様性を誇ります。身近だからこそ、この高い生物多様性は貴重であり、人々の生活とともに守っていかなくてはなりません。私たちは、そんな鏡川の生物を調査し、研究すること、普及啓発を行うこと、ひいては、保全をし、つないでいくことを目標として、2025年に団体を結成しました。メンバーの多くは、学生であり、まだ駆け出しの団体ですが、今回は、去年度の活動やこれからの目標について発表します。</p>
発表のキーワード (3つ)	
①鏡川	②生物多様性
	③調査
来てもらいたいイベント、活動があれば書いてください	



鏡川水生生物研究会の活動

調査研究

鏡川は以前から生物調査などが複数行われていましたが、近年も新しい発見や環境の変化が日々起っています。それらを収集することが過去との比較やこれからの普及・啓発、保全・継承といった全ての土台になります。



普及啓発

調査・研究によって得られた知見を市民の方に広く伝えることで、以前よりも人々が身近な自然に目をむけるようになることが期待できます。それがより大きな鏡川の保全運動につながります。そのため、子供も含め自然観察会などを行い、身近な自然に親しんでもらうことに重きを置いています。



保全継承

鏡川水生生物研究所は、調査・研究により蓄積された知見をもとに、希少種やその環境の保全を将来的に行うことや鏡川に関わる文化を継承することを最終的な目標にしています。また、活動を途絶えさせないため、専門知識に関わらず、多くの若者をメンバーとしています。



鏡川は、高知市を流れる二級河川です。古くから市民憩いの川として知られ、多くの人々に愛されてきました。特に、坂本龍馬が泳いだことや近年のアニメーション作品などで知る方は多いのではないのでしょうか。しかし、鏡川が、人々にとって身近な川でありながら、多様な環境や生物を育んでいることを知っている人は非常に少ないと思います。人は、知ることで物事や問題を始めて認識できます。しかし、逆に言えば、知らなければ、誰にも気づかれることなく、素晴らしい環境が失われてしまいます。鏡川も例外ではありません。この身近な素晴らしい自然は、簡単に消えうるのであります。そこで、私たちは、鏡川の環境を調査・研究し、それを普及・啓発すること、この環境や文化を保全・継承し、後世につないでいきたいと考えました。そうして、設立されたのが鏡川水生生物研究会です。メンバーは、学生を中心とし、日々イベントや調査を行っています。

所属団体名 (ふりがな)	シマントモリモリ団
ホームページ URL	https://shimantomorimori.wixsite.com/sei-miyazaki
活動中の山や 水辺の名称	四万十川流域の里山・人工林・水辺
ふだんの活動内容 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自伐林業を基本にした森林整備・間伐・伐木作業 ・ 林業技術の習得・共有のための研修・講習会 ・ 木材・木工商品の制作・販売 ・ 四万十川でのカヌー・SUP 体験のサポート ・ 軽トラサウナによる自然体験・川遊び活動 ・ 自然観察・災害教育・森遊びなどの体験学習 ・ 地域住民・ボランティアと連携した里山保全活動 ・ 自伐林業普及のための相談・啓発活動
発表内容	<p>発表のポイントを以下に 100~300 字程度でご記入ください。</p> <p>四万十川流域の森と川を未来へつなぐため、自伐林業を基盤とした現場実践と学びの場づくりを行っています。伐木・間伐・森林整備を通じて、山の体力と環境価値を保ちながら、収入と環境保全を両立させる仕組みをつくっています。また、軽トラサウナ・カヌー/ SUP などの体験活動を通じて、四万十川と森のつながりを体感し学ぶ機会を地域内外の方々に提供。森と川が人々の暮らしと未来を支える関係を現場から発信します。</p>
発表のキーワード (3つ)	
① 自伐林業による森の循環保全 ② 体験を通じた自然とのつながり ③ 森・川・暮らしがつながる地域づくり	
来てもらいたいイベント、活動があれば書いてください	





能登ボランティアの
 依頼主のペースにあわせ
 モノを大切にする
 被災された方の気持ちに
 寄り添おうとする心



シマントモリモリ団



所属団体名 (ふりがな)	れいほく ^{ち いきしゅうらくかつどう} 地域集落活動センター ^{れんらくきょうぎかい} 連絡協議会
ホームページ URL	https://kyodonokawa.wixsite.com/kyodonokawa
活動中の山や水辺の名称	吉野川流域における協働の川づくり 嶺北 4 町村 (大川村 土佐町 本山町 大豊町)
ふだんの活動内容 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ● 嶺北エリア 1 2 か所の集落活動センターが地域の宝である川の保全活動を実施 ● 河川環境保全への意識高揚を図る目的で嶺北内の小学生に図画を応募しコンクールを実施、表彰式にあわせて三愛オブリの社員の皆さんと共にあめご放流体験を実施 ● 川に親しむ環境づくりの第 1 歩とし草木の伐採をすすめ安全に降りられる道を整備 ● 水生生物教室や川の安全教室を開催し、学びを通じて川を身近にかんじてもらえるような取り組み ● 川を望める高台に桜を植樹し、森と川をつないだ環境づくり ● 広報活動 (各地への看板設置・ポスター作製・取り組みのチラシ作成) ● 大学や関連団体との連携体制をつくり、過疎のすすむ地域における体制づくり
発表内容	<p style="text-align: center; font-size: small;">発表のポイントを以下に 100~300 字程度でご記入ください。</p> <p>吉野川およびその支流は、集落を守ってきた村人が水を守り、農業や漁業など水とともに地域文化を育んできました。</p> <p>今、人口が激減する山間地にあって、嶺北という 4 町村の活動センターが協力体制をもって水源を守っていく取り組みは、まさに今後持続可能な取り組みを進めるにあたり不可欠であります。</p> <p>さらに、水の事故により子どもたちが水に親しむ体験が少なくなっている現状にあって、支流では安全に川に降りられる道が整備されておらずまた、洪水等で埋没した資材ゴミなどで危険な川となっております。しかし近年酷暑の夏にあって、川に涼を求めて大々の人々が吉野川に押し寄せています。</p> <p>私たち嶺北は、吉野川の水を飲み、遊び、この川でつながっております。嶺北「川に「嶺北の未来を写す取り組み」を進めてまいります。</p>
発表のキーワード (3つ)	
①吉野川の魅力 ②集落活動センターの連携 ③観光案内にのってない魅力	
来てもらいたいイベント、活動があれば書いてください	

吉野川流域における 協働の川づくり



大川村
エリア

結いの里

花桃などの植樹イベントにより、早明浦ダム湖の景観整備を実施し、清流保全の意識醸成のための活動を村をあげて実施している

土佐町
エリア



いしはらの里・地藏寺・みんなの森・松ヶ丘

水生生物の調査や川遊び・安全教室などによる子どもたちが安心安全に川で遊べる環境づくりや、川の栄養補給源となる里山の整備、また、住民から募集した川の写真によるポスター作成などを通じて清流保全意識の醸成を図っている



四国の水がめ
早明浦ダム



大豊町
エリア

西峯・いわはら・東豊永・あなない・立川

登山口となっている立川川源流点の整備や、吉野川周辺の環境整備によるラフティング客の満足度向上、また、人口減少で人の手がいりなくなった川周辺の整備など、観光客や地域住民の利便性向上と景観づくりに取り組んでいる



本山町
エリア



汗見川・なめかわ

雑木の撤去やゴミ放置の課題を解決するための活動を実施する他、川遊びイベントや生き物観察のワークショップの開催を通じて、地域住民の環境保全意識の醸成や、交流人口の拡大を図っている

嶺北地域集落活動センター連絡協議会

次世代を担う嶺北地域の小学生から地域の財産でもある吉野川を題材とした図画を募集、本年度は137作品の応募があり表彰式とあめごの放流を実施



本事業は、三愛オブリ(株)、高知県、本山町、大豊町、土佐町、大川村及びれいほく地域集落活動センター連絡協議会の7者で協定を締結した「吉野川流域における協働の川づくりパートナーズ協定」により事業を展開しています。嶺北にある12の集落活動センターが連携し、吉野川流域の河川の清流保全等の取組を促進し、その取組を通じて各集落活動センターの活動が活発化する好循環を創出することを目指しています。



ホームページ

所属団体名 (ふりがな)	ふる ^{さと} 里 ^{かわ} の川 ^{ほんぐうがわ} 本宮川 ^と を取り ^と もどす ^{かい} 会
ホームページ URL	https://hongugawa.com
活動中の山や 水辺の名称	本宮川 (ほんぐうがわ) 鏡川水系 鏡川から取水する川幅 5m ほど、 全長 1.5km の農業用水路 流域に『蛭橋』と言う地名あり
ふだんの活動内容 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地元小学校 3 年生の総合学習にて本宮川の蛭の秘密を伝える ・ 地元小学校 3 年生との生きもの調査会(えこらぼ様・青少協様と合同) ・ 地元小学生を中心に、本宮川ブルーサンタごみ拾いイベント開催 ・ 広報活動として冊子『本宮川だより』発行 ・ 広報活動として HP・SNS で本宮川流域情報発信 ・ 蛭飛翔時期に配慮し、流域の草刈り時期をずらすよう行政に要請 ・ 本宮川・他の小河川の草刈りとゴミ拾い・水質等見守り ・ 大雨時 本宮川が水無川状態になった場合の魚救出・行政への要請 <p><過去の活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本宮川の水無川対策を求める請願書を高知市議会に提出(令和元年) ・ 2024 年 6 月 9 日 高知パルプ生コン事件シンポジウム主催
発表内容	<p>発表のポイントを以下に 100~300 字程度でご記入ください。</p> <p>■ 子供たちとの絆がホタルの川を未来につなぐ</p> <p>高知市の旭地区、市街地を流れる本宮川には、今も蛭が舞い小魚が群れ泳ぐ貴重な自然が奇跡的に残っています。それは偶然ではありません。</p> <p>その秘密は、蛭橋という地名があるほど昔から蛭の名所であった、本宮川の自然環境を未来の子供たちの為に守って行こうと昭和・平成の時代に先輩方の大変なご努力があったからです。</p> <p>しかし一方で、20 年以上前から大雨になると浸水対策の為、水門操作で水の流入が止まり魚が干上がって大量死する水無川状態になる問題を抱えて、住民は苦悩し続けています。</p> <p>(水無川には年間 10 回ほどなり 2 日~3 日間 水が一滴も流入しない)</p> <p>自然保護か、水害対策か？ いまだに解決できていない課題です。</p> <p>現在流域では、住民の高齢化・地域コミュニティの希薄化にあえいでいますが、私たちは、地元の子供たちに地域の歴史や本宮川の蛭生息の秘密を語り継ぎ、子供たちと一緒に川に入り、生きもの調査や川の清掃活動が続けていく事が、本宮川の蛭飛ぶ身近な自然環境を守るだけでなく地域のつながり・地域の誇りを再生する事に通じると信じ住民主体でコツコツ活動しています。</p>
発表のキーワード (3つ)	
	<p>①市街地なのに蛭が生息する本宮川の秘密 ② 子供たちと絆を育む</p> <p>③自然保護か、水害対策か？ 20 年以上続く本宮川の課題(水無川問題)</p>
来てもらいたいイベント、活動があれば書いてください	<p>本年は、蛭観察会や本宮川ブルーサンタごみ拾いを計画中ですが詳しくは、Instagram や HP で随時お知らせいたします。</p> <p>子供達と一緒に今後もできる範囲でコツコツ活動してまいります。</p> <p>よろしく願いいたします。</p>



子供たちとの絆が ホタルの川を未来につなぐ

高知市旭地区 本宮川には、市街地なのに蛍が飛び小魚が群れ泳ぐ自然環境が奇跡的に残っている。地域の宝 本宮川の自然環境を守る事は『子供時代の原風景』と『地域の誇り』を守る事。水無川問題は未だ解決できないが、子供たちと一緒に川に入り絆を育み川に向き合います。

知る



出前授業



体験

本宮川 生きもの調査会



守る



青いサンタになって楽しみながら川底ゴミ拾い

ホタルの川をみんなで
守っていくぞ～！



受け継ぐ



6年間続いている旭小児童との年間を通じての活動

キッカケは、1人の先生との道端での偶然の出会い

6月

旭地区の歴史や本宮川の蛍のヒミツについて旭小3年生への出前授業

9月

生きもの調査会 実施えこらぼ様・青少協様と合同で

12月

ブルーサンタごみ拾い実施1年生～最高92歳まで約50人参加。地域のつながりが編み直されつつある。

川の名称	本宮川(鏡川水系・1.5kmの農業用水路)	応募テーマ: 子供たちとの絆がホタルの川を未来につなぐ
所在地	高知市 旭地区 南西部	本宮川の課題: 自然保護か水害対策か? 大雨が降ると水門操作で水無川になり、たびたび魚の大量死が起きる
団体名	ふる里の川 本宮川を取りもどす会 (町内会主体の任意団体・結成11年め)	Instagram

所属団体名 (ふりがな)	やすだがわ う つ く やすだちょうみんかいぎ 安田川を美しくする安田町民会議
ホームページ URL	なし
活動中の山や 水辺の名称	安田川 安田町内全域
ふだんの活動内容 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃活動 ・水生生物調査 ・水質調査 ・その他、河川環境の向上に努める
発表内容	<p>発表のポイントを以下に 100～300 字程度でご記入ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・良好な水環境 温暖な気候、流域は雨量も森林も多く、冬でも流れが切れる（瀬切れ）にはまずならない。上流域では柚子、下流域ではナス、ピーマン等のハウス栽培が盛んにおこなわれている。また、土佐鶴、南酒造と人気の酒蔵が2蔵ある ・日本一の鮎の棲む川 清流めぐり利き鮎会でのグランプリ、準グランプリともに2回と鮎のおいしい川として有名、ダイワ鮎マスターズ全国大会三連覇 2023～2025 し日本一のアユ釣り名人を生んだ ・水生生物調査 小学3～4年生 R7年で27回目！！親子二代で受けている方も 仁淀川ガサガサ探偵団等で活躍もしている第一人者の石川先生を講師に ・不法投棄対策 安田中学校の環境学習の中で不法投棄対策として看板をデザイン ・清掃活動 地域の方、JA 青壮年部、安田中学校生徒 ・水質調査 H16から継続して実施しており、水質 AA 基準を長年維持し良質な水であることの証明 <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河床の変化→山の荒廃（手入れされずに荒廃している杉や檜の山林） ・緩やかな水質の悪化→数値上では水質を維持しているが、10～20年単位では透明度の低下等がみられる。
発表のキーワード（3つ）	
①日本一の鮎の棲む川 ②子どもから、中学生、農家、地域を巻き込んだ活動 ③ 豊かな水がもたらす素晴らしい環境	
来てもらいたいイベント、活動があれば書いてください	<p>12月に毎年実施している「なかやま山芋フェスタ」が安田川沿いにある、集落活動センターなかやまを中心に開催しています。自然薯を使ったお汁、鮎の塩焼き、田舎寿司など地域の特産品が楽しめるイベントとなっています。</p> <p>小さな町に酒蔵が2蔵もあり日本酒好きにはたまらない。</p>

安田川を美しくする安田町民会議

- 平成元年設立
- 目的 町民一人ひとりの財産である「ふるさとの川安田川」を大切にする心を育て、河川美化に努めるとともに、永遠の清流として次代に引き継いでいくことを目的とする。
- 主な活動 水質検査年1回、水生生物調査、清掃活動
水質調査はH16から継続して実施しており、水質AA基準を長年維持し良質な水であることを証明となっている。

清流めぐり利き鮎会

グランプリ2回
準グランプリ2回



日本一の鮎釣り名人を生んだ川

ダイワ鮎マスターズ
全国大会三連覇



水生生物調査

小学3～4年生
R7年で27回目！
親子二代で受けている方も！
仁淀川ガサガサ探偵団等で活躍している
第一人者の石川先生が講師



安田川清掃活動（3月）

地域の方、JA青壮年部、安田中学校
生徒・先生の参加もあり80人以上の
参加



安田川

馬路村の稗己屋山(ひえごや
やま)を源流とし、長さ約31.9km、流域面積
約112km²、うち93%が森林、流域の平地率が
2%と急峻、温暖な気候、流域は雨量も森林も
多く、冬でも流れが切れる(瀬切れ)にはま
ずならない。上流域では柚子、下流域ではナ
ス、ピーマン等のハウス栽培が盛んにおこな
われている。また、土佐鶴、南酒造と人気の
酒蔵が2蔵ある。



安田町イメーજキヤラクター
安田朗 (あんたろう)

不法投棄対策

安田中学校の環境学習の中で不法投棄対
策として看板をデザイン

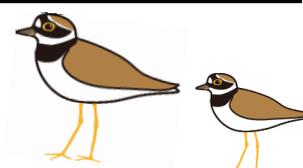


安田中学校オリジナルキヤラクター
あんごちゃん！

課題

- ・河床の変化→山の荒廃
(手入れされずに荒廃していつて
いる杉や檜の山林)
- ・緩やかな水質の悪化
→数値上では水質を維持してい
るが、10～20年単位では
透明度の低下等がみられる。

所属団体名 (ふりがな)	もののべがわ せい き もり みず かい 物部川21世紀の森と水の会
ホームページ URL	
活動中の山や 水辺の名称	物部川流域
ふだんの活動内容 (箇条書き)	<p>目指すは“天然アユが湧き立つ川（豊かな物部川流域）”。</p> <p>当会は、地域共生の理念のもと、物部川の清流保全の推進に寄与するため、会員相互が手を携えながら、物部川流域・川と人のふれあい推進事業と題して以下の啓発活動を展開している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 山の保全を考える日 <ol style="list-style-type: none"> ①水辺林の再生を願う啓発活動 ②源流部の森の再生を願う啓発活動 ③広葉樹の森づくり 森の再生手法検証作業 2 物部川の現状を伝える活動 3 物部川の生き物とふれあう活動 4 物部川流域の森と水の教育 ①『川の駅（川の学校）』開設 ②環境学習授業の提供 5 河川美化活動 6 流域を考えるための調査研究活動
発表内容	<p style="text-align: center;"><small>発表のポイントを以下に 100～300 字程度でご記入ください。</small></p> <p>長きにわたり協力させていただいている香長小学校、羽根小学校との連動した環境学習の実践は、高知県内であれば、ほとんどの校区で出来得るモデル活動だと思われます。</p> <p>生活スタイル価値観も多様化し、肌感覚で自然と接する機会は益々遠のいて行っている傾向は否めません。</p> <p>私はせっかく高知に生まれ、遊び学びできる自然界の仲間がいるのに、それに気づかず戯れることもなく大人になっていくことに悲しさを覚えます。調和のとれた社会を構築するには、真の環境保全意識も必要です。</p> <p>地域ぐるみで気づきの場・機会を提供し、共生心を養う努力をしていくことも、時代の要請ではないでしょうか。</p>
発表のキーワード（3つ）	<p>① ふるさと再発見 ② 川は身近な水族館 ③ 共生心</p>
来てもらいたいイベント、活動があれば書いてください	



所属団体名 (ふりがな)	こうちけん しまんとし か 高知県 四万十市 まちづくり課
ホームページ URL	https://www.city.shimanto.lg.jp
活動中の山や 水辺の名称	渡川水系 四万十川
ふだんの活動内容 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・かわまちづくり協議会 事務局 ・かわまちづくりワーキンググループ 事務局 他 ・渡川緑地、渡川第2緑地公園管理 ・流域治水事業 ・水辺で乾杯
発表内容	<p style="text-align: center;">発表のポイントを以下に 100～300 字程度でご記入ください。</p> <p>四万十川かわまちづくり計画 (計画登録 令和6年8月8日)</p> <p>四万十市民にとって四万十川は、当たり前にある風景の1つで、散歩やスポーツなどコミュニティの場として、日々の生活において身近な存在です。豊富な自然、歴史、文化資源を活かし、カヌーや遊覧船、キャンプ、イベントなど多様な水辺利用が図られており、観光や産業面でも、重要な役割を担っています。</p> <p>かわまちづくりを通じて、将来にわたり四万十川を身近に感じられる環境づくりを行うとともに、観光、商業、産業面でもまちづくりを繋ぐ賑わいの拠点となるよう、ニーズを把握しながら、ハード・ソフトの両面から整備を進めていきます。</p>
発表のキーワード (3つ)	
①四万十川 ②かわまちづくり ③水辺利用	
来てもらいたいイベント、活動があれば書いてください	<p>①四万十川花紀行 菜の花まつり 【開催日：2月下旬～3月上旬】</p> <p>春の暖かい日差しの中、四万十川沿いに約1,000万本の菜の花が広がります。菜の花まつり期間中の土・日には、地区による物販が行われます。</p> <p>②たのしまんとリバーフェスティバル 【開催日11月初旬】</p> <p>四万十川キャンプ場付近での青空マルシェや多数のイベントを開催します。</p>



対象河川：一級河川 渡川水系四万十川 【国管理河川】

市町村名：高知県四万十市



1. 概要

四万十市の四万十川において、幅広い世代の多くの人々がふれあえる水辺空間の創出、地域や民間事業者の河川空間の更なる利活用の推進、まちとかわの魅力・回遊性向上に取り組むことで、地域の集客力向上、滞在型観光の促進、地域活力の向上を図り、市民と行政との協働により賑わいのあるまちづくりを目指す。

取組として、四万十川の河川敷や周辺において、親水護岸、常設トイレ、キャンプ場の水場の整備等を実施し、地域や民間事業者が協働して、河川空間を利用したイベントの開催を促進する。

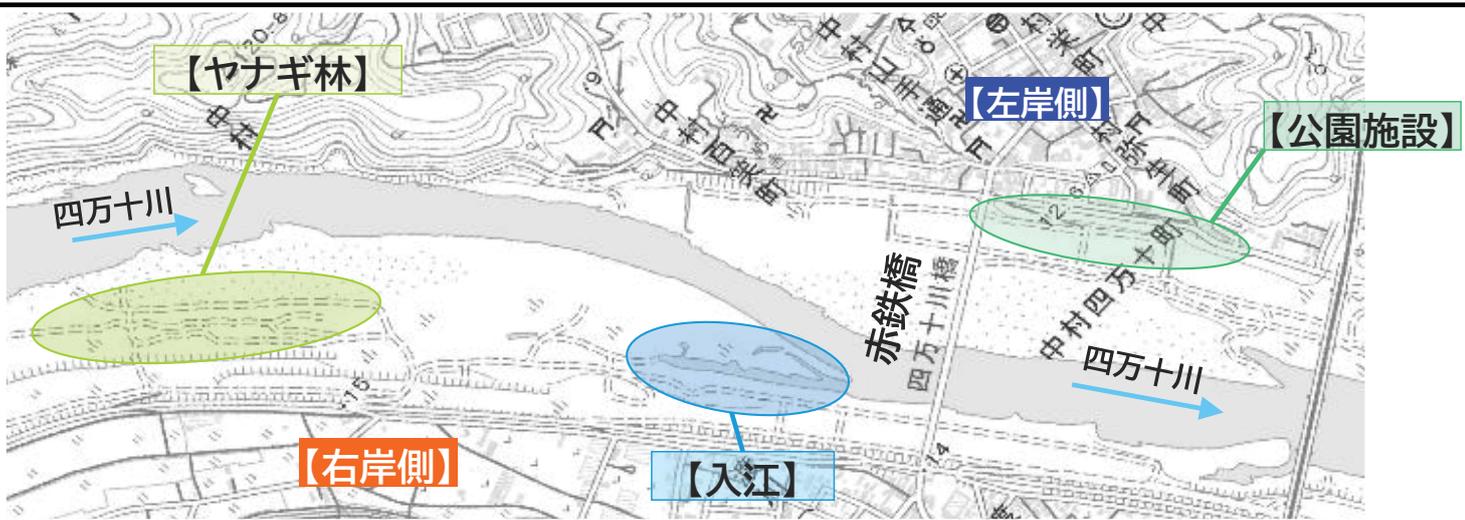
河川管理者(国土交通省)は、この取組に対し必要な河川管理施設を整備するほか、河川空間において営利活動を実施する場合には、河川敷地占用許可準則22条に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等を行う。

2. ハード施策の内容

国土交通省：親水護岸、管理用通路の整備 等 四万十市：常設トイレ、キャンプ場の水場の整備 等

3. ソフト施策の内容

国土交通省：水難事故防止教室の開催 等
四万十市：イベント支援、水難事故防止教室の開催 等



所属団体名 (ふりが な) ホームページ URL	<p style="text-align: center;">いい川・いい川づくり実行委員会 (事務局)</p> <p style="text-align: center;">http://mizukan.or.jp/kawanohi</p>
活動中の山や 水辺の名称	<p style="text-align: center;">全国各地の“いい川”</p>
ふだんの活動 内容 (箇条書き)	<p>・いい川・いい川づくり実行委員会は、市民、行政などに呼びかけ一堂に会して行われる公開選考会方式のワークショップの開催、交流を通じ、“いい川”の実現、“いい川づくり”の実践につなげていくことを目的に、水環境の保全・改善に関わる市民、学識者、河川管理者等により組織（1998）された。以降、「川の日」ワークショップ（1998～2007年）、「いい川」・“いい川づくり”ワークショップ（2008年～）を主催、運営している。</p> <p>・開催を通じた全国ネットワークと、国内外各地で独自に開催されている地域大会とも連携し、常に情報のストックやネットワークの展開を図ってきた。現地検証や研究会等を行う「いい川・いい川づくり研究会」（2000年～）、成果を編著「私たちのいい川・いい川づくり最前線」（学芸出版社）として出版、地域の河川特性に応じた“いい川”づくりの理念や計画、技術を学ぶ「“いい川”づくり研修会」の開催（2012～2022）など。</p>
発表内容	<p style="text-align: center;"><small>発表のポイントを以下に100～300字程度でご記入ください。</small></p> <p>いい川”・“いい川づくり”ワークショップは、私たちがめざす“いい川”、水辺とはどんな姿なのか、どんなことなのか、自由に柔軟に探っていこうと、各地で活躍する市民・行政に呼びかけ、1998年にスタートしました。各地の取り組み、思いを持ち寄り、2日間、全て公開で行われる発表、議論のプロセスから、“いい川”、“いい川づくり”のビジョンやヒントを発見、共有し、取り組み、次なる一手につなげます。</p> <p>対象とする領域やテーマを広げながら、これまで27回の開催で、参加団体はのべ1365件となりました。2000年頃より全国各地、韓国でも同様のワークショップが独自に開催されるようになり、さまざまな交流、ネットワークにつながっています。</p> <p>2026年11月、高知で開催される通算28回となる大会に向けて、昨年10月に神戸で開催した「第17回“いい川”・“いい川づくり”ワークショップ in ひょうご神戸」をふりかえりながらご紹介します。</p>
発表のキーワード（3つ）	
① “いい川” ってなんだろう ② 共感を呼ぶチカラ ③ わくわく & リーズナブル	
来てもらいたい イベント、活動 があれば書いて ください	<p>(仮題) 第18回(通算28回) “いい川”・“いい川づくり”ワークショップ in 高知 みんなに愛される・みんなで考える“いい川”・“いい川”づくり公開選考会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 会期：2026年11月7日(土)・8日(日) * 11/6は、地域の水辺を訪ねるエクスカージョンを予定 ・ 会場：高知大学 朝倉キャンパス(高知市曙町2-5-1) ・ 主催：いい川・いい川づくり実行委員会 (大会サイト) http://mizukan.or.jp/kawanohi 【事務局(NPO法人全国水環境交流会)】 現地事務局：公益財団法人 四万十川財団 TEL/03-3408-2466 E-mail: kawanohi-2006@mizukan.or.jp <p>* 川仲間になろう！第18回「川の日」ワークショップ関東大会 in 本庄早稲田</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 会期：2026年3月21日(土) ・ 会場：早稲田リサーチパーク コミュニケーションセンター(埼玉県本庄市西富田1011) <p>※「川のシンポジウム2026」と同時開催</p>

“いい川”・“いい川づくり”ワークショップ



since1998

みんなに愛される・みんなで考える“いい川”・“いい川づくり”公開選考会

“いい川”・“いい川づくり”ワークショップは、私たちがめざす“いい川”、水辺とはどんな姿なのか、どんなことなのか、自由に柔軟に探っていこうと、各地で活躍する市民・行政に呼びかけ、1998年に「川の日」ワークショップとしてスタートしました。対象とする領域やテーマを広げながら、これまで27回の開催で、参加団体はのべ1365件となりました。2000年頃より全国各地、韓国でも同様のワークショップが独自に開催されるようになり、さまざまな交流、ネットワークにつながっています。

全国から寄せられた“これぞいい川・いい川づくり”という実践や思いをもとに、全て公開で行われる発表、議論のプロセスを通じて、地域や世代を越えた対話と交流の場を創出します。川と人との関係性を問い直しながら、これからの水辺のあり方をともに描いていく2日間です。

◆プログラムの流れ

前回大会「第17回“いい川”・“いい川づくり”ワークショップinひょうご神戸～水のめぐみとともに生きる地域の力を、震災30年の地から発信する～」(2025.10.25-26)より

開会 地元神戸の明石川で活動する玉ーアクアリウムの子どもたちによる歓迎の挨拶



全ての発表を会場全体で共有する **全体発表会**
3分間で伝える！工夫を凝らした発表は、共感を呼ぶチカラが光ります



テーブル選考 それぞれの取り組みのいいところをグループワークで見え、深堀りします。

地域発・特別セッション
講演「阪神淡路大震災から30年～被災地支援からの学び」



復活選考 ポスターセッション 2日目早朝のスタート。対話、新たな視点から全体選考へ推薦



テーブル・復活選考の推薦による対象者の発表(左)と、コーディネーター、コメンテーター、会場からの応援や意見も交えて行われる **全体選考** (中)と、最終選考を兼ね全体を振り返る **公開討論会** (右)。
“いい川”、“いい川づくり”の評価ポイントやキーフレーズが紡がれていきます



表彰式 ワークショップの成果を全員で称え合います。

「次回は高知で！お待ちしております!!」 神田さん(公財)四万十川財団



“いい川”・“いい川づくり”ワークショップとは？

- 2日間にわたり行なわれる選考会のプログラムは、全体会場での全応募者による発表に始まり、グループに分かれて行われるテーブル選考、復活選考、全体選考、公開討論会と、全てオープンに行われます。
- 選考は優劣を決めるものではありません。発表によるリアルな取り組みの中から、選考過程を通じた議論の深まり、新しい視点やそれぞれのタカラモノの発見、共有をめざします。
- 応募者は、3分間で自由な表現方法で発表、アピールします。工夫を凝らし熱のこもった発表が毎回繰り広げられます。日頃の取り組みを発表すること、そして議論や交流を通じて、新たな発見、取り組みのエネルギーをつかみます。
- 公開選考会は、おおよそ以下の4つのカテゴリーにおいて総合評価します。
 - ✓ 発想・着眼評価： “いい川” をめざすための斬新な発想や着眼、的確な視点についての評価
 - ✓ 関わり評価： 地域住民と川との豊かで良好な関わり合いについての評価
 - ✓ プロセス評価： “いい川” を育むための市民・住民参加や、様々な分野の人達との協働のプロセスについての評価
 - ✓ 計画・技術評価： 川らしさの保全や “いい川” 回復のために工夫された計画手法、技術等についての評価や “いい川” を実現した計画、技術などに対する評価
- 2日間を通じた合意の深まり、学びあいの成果としてグランプリや入賞を選び、讃えあいます。

第18回(通算28回) “いい川”・“いい川づくり”ワークショップ は、2026年11月に高知で開催します！

○会期：2026年11月7日(土)・8日(日) *11/6は、地域の水辺を訪ねるエクスカージョンを予定

○会場(予定)：高知大学 朝倉キャンパス (高知市曙町2-5-1)

・主催：いい川・いい川づくり実行委員会 (大会サイト)<http://mizukan.or.jp/kawanohi> →

いい川・いい川づくり実行委員会事務局 (NPO法人全国水環境交流会) E-mail: kawanohi-2006@mizukan.or.jp

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-20-14 神宮村301 TEL: 03-3408-2466 FAX: 03-5772-1608

*現地事務局：公益財団法人 四万十川財団

1. ポスター発表参加団体

NO	団体名	頁
21	高知県 土木部 須崎土木事務所	48
22	高知県 土木部 幡多土木事務所	49
23	高知県 林業振興・環境部 治山林道課	50
24	高知県 林業振興・環境部 林業環境政策課	51
25	高知県 林業振興・環境部 環境対策課	52
26	高知県 林業振興・環境部 環境対策課	53
27	高知県 総合企画部 中山間地域対策課 鳥獣対策室	54
28	物部川流域ふるさと交流推進協議会	55
29	四万十川総合保全機構	56
30	公益財団法人 四万十川財団	57
31	香長ネイチャーゲームの会	58
32	物部川清流保全推進協議会	59
33	仁淀川清流保全推進協議会	60
34	仁淀川流域交流会議	61
35	仁淀川の”緑と清流”を再生する会	62
36	広見川等農業排水対策協議会	63
37	特定非営利活動法人 川塾	64
38	株式会社 相愛	65
39	特定非営利活動法人 環境の杜こうち（当日会場展示のみ）	



②1 新莊川における魚道整備の取り組み

高知県土木部須崎土木事務所

新莊川について

河川名：二級河川新莊川
 流路延長：約25km
 流程：高知県 津野町 葉山～
 高知県 須崎市 (土佐湾)
 流域の特徴：
 ・最後にニホンカワウソが確認
 ・アユ釣りやレジャーで利用



写真提供者：鍋島誠郎



©susakicity



完成した魚道及び護床工



施工前の状況 (平成31年頃)



床止工直下の河床低下状況と流失した巨石



- ・床止工下流で局所洗堀と河床低下
→約1.0mの落差が発生
- ・落差解消のためH28年に巨石を投入するも流失
→魚道を整備することになった



魚道整備の概要 (設計・整備・検証期間：平成31年度～令和7年度)



Point 3段構えの魚道整備

- ・魚道の設置により上下流の分断を解消した。
- ・3種類の魚道を設置し、魚種や生物種に対応した水深や流速創出を目指した。

1号魚道：2号水路脇のスペースを活用し、流速を抑えた水路魚道を構築
2号と3号の中間的な魚道を設置

2号魚道：台形断面型魚道 (比較的オーソドックスな形状)
全般的な魚種・生物種に対応

3号魚道：比較的水深の浅い魚道 (2号の流量が多いことから、溢れた水を活用)
2号魚道の流量が増加した時の越流水を活用・底生動物にも対応



まとめ

・専門家の指導のもと、呑口の高さに違いを設けることで、遡上しやすく且つ、河川流量の変化に対応できる3段構えの魚道を整備し、魚類の遡上が確認できた。

・自然石を活用し、河川の流れに柔軟かつ経済的に対応できる魚道整備と下流の洗堀対策 (長期的な魚道機能の維持) を目指して、引き続き最下流の洗堀対策の最終工事に取り組んでいる。

- 四万十市西土佐中半地区において、河川環境の改善を目的に、下流の堆積土砂（粒径10～30cm程度）を置土
- 洪水時に土砂が自然流下することで、魚類の生息に適した土砂の供給や河床に沈殿した泥のクレンジングを期待
- 現在、置土後のモニタリング調査（生物の生息状況及び河床状態の変化、置土の流下状況等）を実施中



置土直後(R6.11)



流下状況を確認するため白色の石を設置



置土1年後(R7.10)



置土の一部は出水により流下



被災直後



令和元年11月撮影

施工直後



令和5年6月撮影

緑化状況（施工後約1年）



令和6年7月撮影

【概要】 令和元年7月21日から22日の豪雨により、高さ約200m幅20mが被災し下方国道195号線が通行止めとなった。令和2年度から災害関連緊急治山工事及び緊急総合治山工事により山腹斜面を復旧した。（簡易法枠工5,166m²、土留工6基ほか）

【治山事業：溪間工】 治山施設の効果事例【高知県吾川郡いの町小申田】

治山事業による災害防止効果
高知県吾川郡いの町小申田地区において、溪流内の土砂流出の発生を抑制するため、平成31年度に治山ダムを施工した。（谷止工1基）
その後、令和5年8月30日から31日の豪雨により、県道の路側擁壁下方の山腹が崩壊し土砂が流出したが、この治山ダムにより流出土砂を補足し、下流の河川及び農道・国道の被災を防止した。

H31年度施工 谷止工
（下流側から）



R5 8月豪雨後
（下流側から）



R5 8月豪雨後
（上流側から）



H31年度施工 谷止工

H31年度施工 谷止工
（上流側から）



高知県 林業振興・環境部 治山林道課
住所：〒780-0850 高知県高知市丸ノ内1丁目7番52号
電話：088-821-4867（治山担当）FAX：088-821-4585
メール：030601@ken.pref.kochi.lg.jp

森林環境税とは

森林は、水源のかん養や土砂災害の防止、木材の生産、二酸化炭素の吸収による地球温暖化の緩和など、大切な役割を担っています。

高知県では、「広く薄い負担によって森林の重要性を認識し、県民みんなで森を守っていく」ことを目的として、平成15年（2003年）に全国に先駆けて森林環境税を導入しています。

個人・法人ともに県民税（均等割額）として年額500円を一律にご負担いただき、森林環境を保全するための事業の財源として活用しています。

森林環境税の使途

森林環境保全の取組を進めていくには、県民一人ひとりの意識の変化や具体的な行動が必要です。森林環境税は、森林への理解と関わりを深め、広げていくためのソフト事業を中心に、以下の取組に活用しています。



あなたの500円が、こちの森づくりを支えています。

森林環境税についての
お問い合わせは

高知県林業振興・環境部
林業環境政策課

〒780-0850 高知市丸ノ内1丁目7番52号

TEL:088-821-4586 FAX:088-821-4576

E-mail:030101@ken.pref.kochi.lg.jp

HP:https://www.pref.kochi.lg.jp/doc/ken-kankyousei/





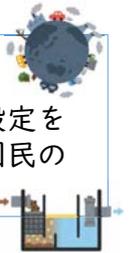
25

川や海、人の健康のためにやりゆうこと

環境対策課では**水質汚濁防止法**に基づいて、川や海の水質測定(公共用水域常時監視)や、排水をする工場への立入りを行っています。

水質汚濁防止法は1971年(昭和46年)に施行された法律です

1950年代、戦後の高度経済成長により川や海の水質汚濁が進行し、公害が起こりました。このような問題へ対応するため、国全体で、工場排水の規制や、川や海の水の基準(目標)の設定をする必要がありました。水質汚濁防止法は、そのような時代背景の中で、水環境を守ることによって国民の健康を保護するために制定されました。

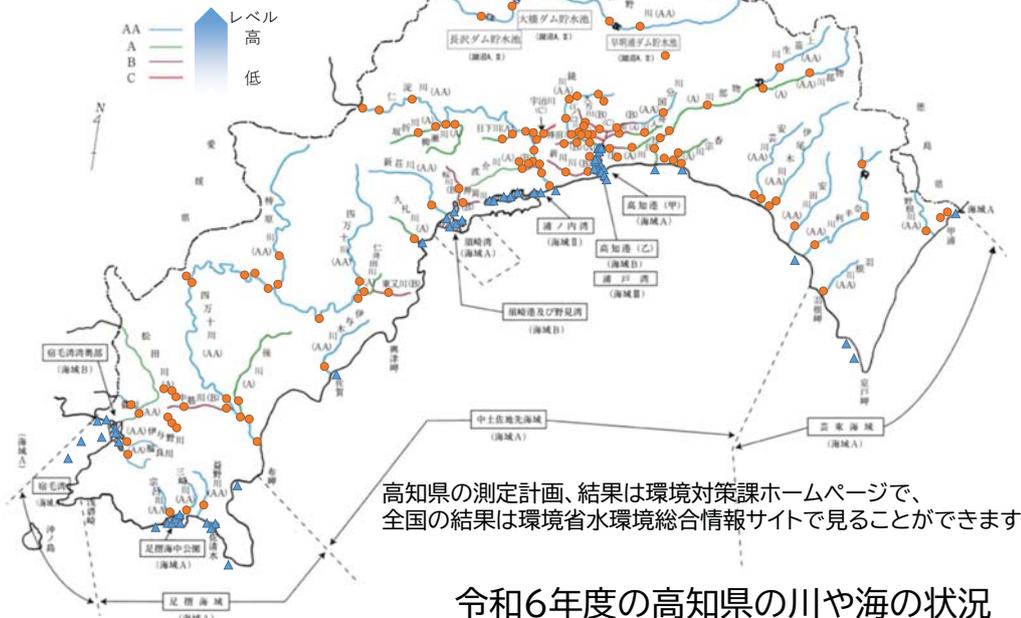


高知県でも川や海の水の定期的な調査を昭和46年から行っています。

- ・水域という川のグループごとに、川の利用目的に応じて類型(等級)が定められ、それぞれに達成すべき水質の基準値が定められています。
- ・有害物質で汚染されていないか、汚れがひどくなっていないかなど、川や海の状態を把握するための調査を川(湖沼含)で116地点(●)、海で59地点(▲)で行っています(令和7年度時点)。(高知県、高知市、国土交通省、水資源機構で分担)

公共用水域類型指定状況及び調査地点図

類型指定は、高知県ではAAからCで指定。AAが一番きびしい目標です。



高知県の測定計画、結果は環境対策課ホームページで、全国の結果は環境省水環境総合情報サイトで見ることができます

令和6年度の高知県の川や海の状態

- ・有害物質については、測定している全ての地点で基準を達成。
- ・水の汚れを評価する指標(BOD, COD)については、川では全ての水域で環境基準を達成、海では一部水域を除いて達成。



よくある質問

どうやって調査地点を決めているの？

水の利用(ダム、水道)や汚濁水の流入、支川の合流等の状況から、河川の状態を総合的に把握できる地点を選んでいます。経年の変化を把握できるように同じ地点で測っています。

何の項目を測っているの？

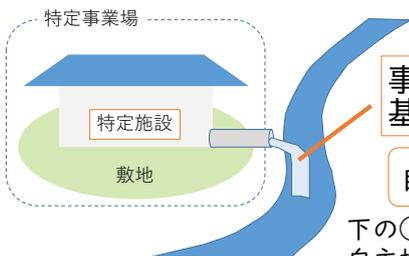
大きく分けると、人の健康へ有害な影響を与える項目(健康項目)と水の汚れ具合がわかる項目(生活環境項目)を測っています。

ずっと同じ項目を測っているの？

基本的にずっと同じ項目を測っていますが、時代の変化や技術の進歩等により新たに調査をする必要が出た場合には、国全体で新たな項目を追加して調査することとなるため、高知県でも追加しています。

工場からの排水が基準を満たしているか立入りをして確認しています。

- ・水質汚濁防止法では、公共用水域にとって影響の大きい汚濁物質を排出する施設を特定施設として指定し、これらを有する事業場(特定事業場)からの排水に対して排水基準を定めて、基準に適合しない水を公共用水域に排出してはならないとされています。



事業所の敷地から出る排水は基準を満たしていないといけません。

自主検査 チェック!

チェック! 立入検査

県は、事業所への立入検査で、排水の測定、施設の使用管理状況、排水の自主検査の実施状況などについて確認しています。なお、違反事業場については、施設の改善、管理の強化などの行政指導を行っています。令和6年度は172件の立入検査しました。

- 例えばこんなものが特定施設
- ・旅館のお風呂、厨房
 - ・製紙会社の抄紙機(紙をすく機械)
 - ・お豆腐屋さんの豆を煮る施設
- 他にもたくさんあります

下の①、②に該当する事業者は1年に1回以上自主検査をし、基準を満たしているか確認しています。

- ①有害物質を排水口から排出する又は排出するおそれがある事業者
- ②1日の平均排出水量が50 m³以上である事業者

高知県清流保全条例で、浦戸湾流域、仁淀川流域、吉野川流域へ排出する排水には、法よりも厳しい基準を定めています。
※水域には該当河川と合流する支川も含んでいます。

3Rを実践してもらうための展示の工夫

環境対策課ではごみ全般や海ごみのこと、リサイクルのことなど

「ごみの問題」を県民に知ってもらい、県民の行動を変えるために展示をし、啓発を行っています。

「ごみの問題」と一言と言っても、ごみの問題は様々なことが絡み合っています。ごみの排出量を減らす、海ごみを減らす、リサイクル認定制度（とさクル!）の普及など、それぞれのテーマに沿って啓発する場合でも、「なぜそれに取り組まないといけないか」（背景）から「3Rの実践」（行動）まで伝える必要があります。また、それを文章で表現すると長くなります。現代人は長い文章を読まない傾向があるように感じています。そんな中、みなさんに興味を持ってもらって少しでも3Rを実践してもらうために考えた結果、立体物や漫画で伝えるというところに着地しています。今後、また時代が変われば伝え方も変わっていくと思います。このポスターでは近年行っている展示を紹介するとともに、担当者がどのようなことを工夫しているかをお伝えします。

海ごみと自動販売機横のリサイクルボックスの問題を伝えたいシリーズ

伝えたい内容 ①海ごみと陸ごみの関係 ②自販機横リサイクルボックスがごみ箱と誤認されている問題 ③高知でも起こっている問題ということ

2024年8月オーテピアでの連携図書展示※
※関連図書と一緒にする展示

- 展示条件
 - ・夏休み期間中
 - ・1ヶ月間の展示
 - ・子供もたくさん通る場所
 - ・展示物は広いテーブルの上に



- 展示内容
 - ・子供の興味を引きやすいように、また、海ごみ、陸ごみ、リサイクルボックスの問題がだれでも理解できるように立体工作で説明（テーブルという土台を活用）
 - ・高知の海ごみやリサイクルボックスの写真を紹介

2025年2月県庁ロビーでの展示

- 展示条件
 - ・冬の県庁ロビーで10日間
 - ・人通りは少ない
 - ・パネルへ貼ったり床に置いたりできる



- 展示内容
 - ・通りすがりでも軽く読める大きい漫画で説明
 - ・紹介したい「下向き投入口リサイクルボックス」の現物を展示

リサイクルボックスはゴミ箱じゃない、という展示とともに「このリサイクルボックスは展示用なので物を入れないでください」と書いて、投入口にフタもしていたのに空ペットボトルが2つ入れられてショックでした。

3Rと最終処分場とリサイクル認定制度のことを知ってほしい

2025年11月もくもくエコランドへ出展



- 出展内容を練る時に考えたこと、懸念点

- ・ごみを出さないブースとしたい
- ・展示しておくだけでは真剣に読んでもらえないのでクイズ形式にしたいが、クイズの解答用紙がごみになる
- ・何か「おみやげ」がないと行政の啓発ブースは立ち寄ってもらえないが、最終ごみとなるものは渡したくない
- ・エコバックをおみやげにしたいがプリントするとお金がかかる

↓ 懸念点を全て解決した出展内容として
「クイズの答えを消しゴムハンコで押したエコバックをおみやげにしよう」ことに!

- 出展内容

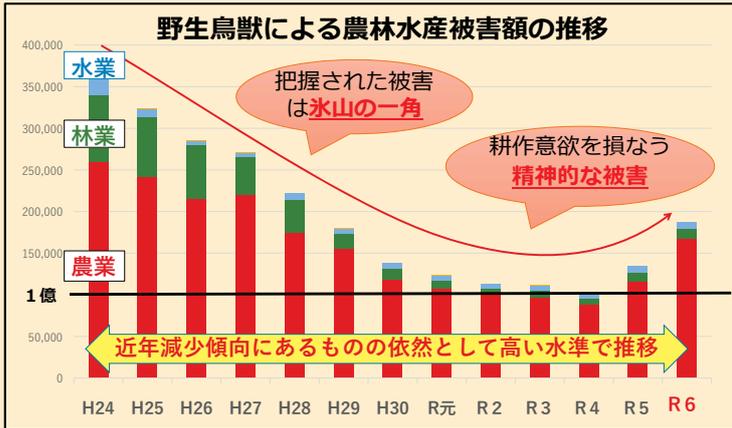
- ・伝えたい内容を盛り込んだ漫画(左図)を、表通りに面したところへ展示
- ・漫画の中に答えがあるクイズに挑戦
- ・クイズの答え(消しゴムハンコ)を、無地のエコバックに押す
- ・クイズの後には好きな消しゴムハンコを押すコーナーでハンコを押す→マイバッグの完成

<よかった点>
・子どもだけでなく大人にも楽しみながらごみを知ってもらえた
<課題>
・漫画が読めるのはおおむね小学3年生以上という感じだったので、それより小さい子はどうか
・手をふいたりするで結局ごみは出る

最後に 展示をする時に心がけていること

- ・惰性の展示をしない
- ・今伝えるべきことはなにかを考える
- ・どうやったら見てもらえて、行動変容に繋がるか考える
- ・一人ではなく複数人のアイディアで練り上げる

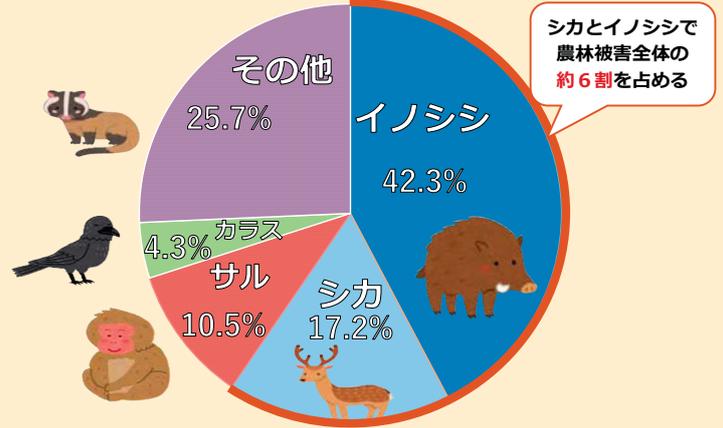
農作物への被害が深刻化



- 野生動物の増加や農作物への執着が原因**
- ・地球温暖化により冬季の生存率がUP
 - ・狩猟者の高齢化による担い手不足
 - ・耕作放棄地の増加や人間との境界線が薄弱化
 - ・一度食べたおいしい農作物に執着

野生動物が増加しすぎている

加害鳥獣別の農林水産業被害額の割合



令和6年度の農林水産業被害額
約1億8千万円における割合

野生鳥獣の特徴

イノシシ

パワー系



- 特徴**
- ・体長100～170cm前後 体重50～150kg
 - ・体ががっちりして筋肉質
 - ・雑食性でドングリやミミズなどの虫を食べる
 - ・突進力があり最高40～50km/hで走ることも
 - ・鼻だけで60キロの物まで持ち上げることができる

シカ

スピード・回避系



- 特徴**
- ・体長90～190cm 体重30～120kg (オスの方が大きい)
 - ・足が長く、跳躍力が高い(2m飛べる)
 - ・草食で、草葉や樹皮を食べる
 - ・警戒心が強く、危険を感じると素早く逃げる
 - ・オスは毎年角が生え替わる

サル

知能系



- 特徴**
- ・知能が高く、学習能力がある
 - ・群れ社会を作り、順位関係がある
 - ・人の生活圏にも出没しやすい
 - ・雑食性で果物や木の実、昆虫を食べる
 - ・表情や鳴き声でコミュニケーションをとる
 - ・記憶力が特に良い



作物がなぎ倒されたり
掘り返されたりする



シカの食害が
植生の偏りや土砂崩れ
につながる



森林破壊



遊ぶために農地を荒らす場合もある
民家の屋根に登ったり、人に危害を加える事も

守りと攻めの両面から総合的な鳥獣対策を推進

守り

防護柵で農地を囲う

動物の侵入を防ぐ

電気柵 ワイヤメッシュ柵

動物が寄りつく誘因物をなくす

魅力的なエサ場を作らない

地域ぐるみの取り組み

研修や追い払い活動を協力する

攻め

箱わなやくくりわなを使った捕獲活動

増えすぎた個体数を減らす

ジビエを通した関心作り

ジビエ活用の拡大

鳥獣被害減少へ！！

協議会設立の背景と目的

物部川流域ふるさと交流推進協議会は、物部川を軸とした流域のつながりを大切に、自然環境の保全と地域交流の促進を目的として設立されました。物部川は、地域の暮らしや産業を支えてきた貴重な資源である一方、森林の荒廃や過疎化、高齢化の進行により、水源涵養機能の低下や水質・流量の変化などの課題が顕在化しています。こうした状況を共有し、住民・行政・関係団体が連携して学び合い、行動につなげる場として本協議会が設立されました。

【設立の歴史(沿革)】

本協議会の起源は、平成8年に物部川流域の住民交流を目的として発足した「のいち・ものべ村交流会議(アクア・リブル・ネットワーク)」にあります。当初は野市町と物部村を中心に活動が始まり、その後、吉川村や土佐山田町などへ参加が広がりました。平成11年以降は流域全体での連携体制が整備され、市町村合併を経て、現在は香美市・香南市・南国市の3市を中心に、流域全体の環境保全と交流促進に取り組んでいます。

【アクア・リブル・ネットワークとの協働による流域づくり】

アクア・リブル・ネットワークは、平成8年に物部川上流と下流の住民交流をきっかけに誕生し、森林の公益的機能や水環境の大切さを学びながら、流域全体の環境保全意識を高める活動を継続してきました。物部川流域ふるさと交流推進協議会は、その理念と歩みを共有し、住民団体・行政・関係機関と連携しながら、フォーラム開催や現地体験、情報発信などを協働で実施しています。山・川・暮らしは密接につながっており、流域全体で課題を共有し行動することが重要です。両団体は、世代や地域を越えた交流を通じて、持続可能な流域づくりを進め、次世代へ豊かな自然環境を引き継ぐことを目指しています。

協議会の理念と流域への想い

協議会は「私たちの物部川を守ろう(KEEP MONOBEGAWA)」を理念に掲げ、山・川・暮らしが一体となった流域のつながりを大切にしています。森林が水を育み、川が地域の生活や産業を支えるという循環を守るためには、地域全体で課題を共有し、協力して取り組むことが不可欠です。フォーラムや環境学習、現地活動などを通じて、一人ひとりが流域環境への理解を深め、未来へ豊かな自然を引き継ぐことを目指しています。

物部川フォーラム

【フォーラムの目的と役割】

物部川フォーラムは、流域を取り巻く環境課題について知識を深め、その解決への糸口を見出すための場として開催されています。過去のフォーラムでは、物部川の現状や抱える問題について専門家や市民、関係団体が情報を共有し、意見交換を行うことによって、地域全体の環境意識を高める機会となっています。こうした取り組みを通じて、物部川の環境保全に関心を持つきっかけや、住民同士の交流の場としての機能も果たしています。

【フォーラムでの学びの内容】

フォーラムでは、基調講演やパネルディスカッション、意見交換を通じて、多面的な視点から物部川流域の課題を学びます。専門家による講演では、例えば海洋環境の視点からのプラスチックごみ問題が紹介され、また地域団体や農業関係者の発表により、現場での取り組みや知見が共有されます。こうしたプログラムは、参加者一人ひとりが自分の暮らしや地域とのつながりを改めて考えるきっかけとなる構成となっています。



▲第1回物部川フォーラム



▲第2回物部川フォーラム

物部川環境学習バスツアー

関係団体や行政関係者だけでなく、物部川流域住民等が、物部川の現状や課題について学んだり意見交換をしたりすることで、物部川への関心を持ってもらうきっかけづくりの場となり、参加者が共に考え、行動することで、清流の再生を目指すことを目的に主に小学生を対象として行っています。

【今までに行った内容】



▲日ノ御子で川泳ぎ ▲自然の中で環境学習 ▲学んだことを発表 ▲アユの産卵所見学



▲ウミガメとゴミについて ▲お昼ご飯にはアユの塩焼きとシカ肉カレーが定番 ▲安全対策もばっちり

永瀬ダム見学

物部川には3つのダムがあり、そのうち一番上にある永瀬ダムを見学。事務所の方からダムの現状や役割についてお話を聞きました。



エレベーターでダムの中、地下4階まで…!! 分厚いコンクリートに囲まれており、外気の影響をほとんど受けなため夏にひんやりと涼しく(むしろ寒い)、冬は外よりも暖かく感じました。



地下の通路を抜けた先は下からダムを見ることが出来ます。下から見上げたダムの迫力に子供たちは圧倒!



◀放水時には一面真っ白に!

参加した人達の感想

- ・自分の住んでいる地域だが、なかなか普段考えない内容で実際に見られて理解しやすかった
- ・役割を持った場所も課題があると知った
- ・自然と生物と人間の生活のつながりを学べた

【物部川流域清流保全パートナーズ協定について】

物部川流域ふるさと交流推進協議会では、「環境を守っていく活動を応援したい企業」と、「物部川流域ふるさと交流推進協議会」、「高知県」が協定を結ぶことで、清流を守るための活動を進めていく物部川流域清流保全パートナーズ協定(協働の川づくりパートナーズ協定)を行っています。いただいた寄付金につきましては、物部川流域の清流保全のために活用させていただきます。

【パートナーズ協定企業のご紹介】

- ・株式会社伊藤園
- ・株式会社土佐山田ショッピングセンター
- ・株式会社あさの



【イメージ図】

【啓発グッズ紹介】

寄付金を活用し、物部川啓発グッズを作成しています。作成したグッズは物部川流域のイベント等で配布を行い、日常的に使用できるものをグッズにすることで日頃物部川について考えてもらい、グッズを介して物部川の魅力をたくさんの方に知っていただきたいと考えています。これまでに作成した啓発グッズをご紹介します。



木のうちわ

サコッシュ

ピンバッチ

ステンレスボトル

【令和7年主な活動記録】

Green Tea for Good「お茶で高知を美しく。」環境活動



- ・開催日: 令和7年4月29日
- ・場 所: ごめん・なはり線香我美駅前 岸本海岸東側
- ・内 容: 株式会社伊藤園主催により、香南市岸本海岸で清掃活動を行いました。当日は約70名が参加し、海岸に打ち上げられたペットボトルなどのゴミを回収に参加しました。

夏休み!! 物部川であそんで! 学ぼう! 「物部川川の学校」



- ・開催日: 令和7年7月29日
- ・場 所: 物部川河川敷
- ・内 容: 高知河川国道事務所が中心となり、午前は参加者による水質の簡易調査と水生生物調査を行い、午後は物部川21世紀の森と水の会が中心となり、シュノーケリングを使用してのエビ玉漁体験などの川遊びが行われました。協議会としては、参加者の運営サポートを行いました。

プラごみ調査V & 清掃活動



- ・開催日: 令和7年10月29日
- ・場 所: ごめん・なはり線香我美駅前 岸本海岸
- ・内 容: 株式会社ビグウェブとともに「環境の杜こうち」、「物部川21世紀の森と水の会」、「香美市こどもエコクラブ」とともに、清掃活動を行いました。当日は、ペットボトルやプラスチック等の沢山のゴミ回収に繋がりました。



四万十川総合保全機構 活動事業

四万十川総合保全機構とは…

四万十市、四万十町、津野町、梶原町、中土佐町の5市町からなる連合組織です。「日本最後の清流」と呼ばれている四万十川も時代の流れとともに、少しずつ変化してきています。我々の日常生活の支えであり、宝物である四万十川を未来へと繋ぐために活動をしています。

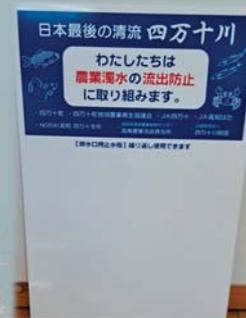
四万十川一斉清掃

毎年4月10日を四万十の日と題して、その週付近で四万十川一斉清掃を開催している。流域住民の方々にもこの活動は浸透していて、毎年多くの方が参加してくださいます。ゴミの量も年々減ってきているので、この状態を継続できるように住民意識を高めていきたいです。



農業濁水対策

当機構と県は協力して農業濁水対策に取り組んでいます。現在は濁水の流入を土壌改良剤によって抑制が図れないか実験したり、止水板配布や浅水代かき実施の呼びかけなどを行っています。



課題

上記以外にも課題になっているのは、伏流水の減少や特定外来生物であるアレチウリの発生、カワウによる食害対策など多くありますが、5市町一丸となって課題解決のために組織活動も強固なものにしていければと考えています。

31 香長ネイチャーゲームの会

～里山整備と自然体験活動の実践～

香長ネイチャーゲームの会
つねにし
代表の常石です!



活動目的

本会は、公益社団法人日本シェアリングネイチャー協会の地域組織として、子どもを含む一般住民にネイチャーゲーム体験を通じて、自然とのふれあい、自然や環境への理解を深める場を提供するとともに、所属指導員の指導技術の向上を図り、もって地域におけるネイチャーゲームの普及発展を図ることを目的として活動しています。

活動内容

香南市野市町大谷にある「のいち冒険の森」をフィールドに自然体験教室を開催し、小学生を中心とした地域の住民並びに県民に、自然への気づきを伝える活動を行っています。また、のいち冒険の森を定期的に整備し、身近な里山としての価値を維持する活動も行っています。その他、香南市、物部川21世紀の森と水の会などと連携し、更なる感動体験の手助けをさせていただいています。

活動分野

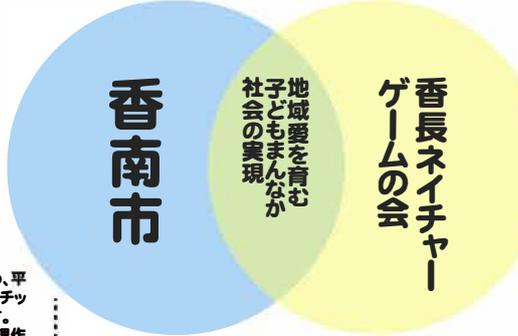
森林・里山
川・水・いきもの
植物・環境学習

のいち冒険の森のご紹介

のいち冒険の森は木製のフィールドアスレチックなどが整備された公園で、地域の子どもたちの環境学習の一助を担っています。また、誰でも自由に森の中を散策することができ、ウォーキングルートや地域の憩いの場として親しまれています。ぜひ一度「のいち冒険の森」へ足をお運びください。



～自然も心も豊かに～



常石おんちゃんのつぶやき

先日イベント準備にシイの実を拾いながら感じたことは、“とうとう自然の恵みを利用する文化が途切れたか?”です。そのうちクも拾わなくなるのかもしれないや、来年3月にはシイの実を煮て味わってもらおう。
自然とふれあえる身近な里山(居場所)を目指して動きはじめた活動が継承されることを祈っています!

整備

をはじめたのは平成10年からです。当時の野市町長に賛同を得、コツコツ手を入れはじめ、平成13年に県民参加の予算づくりモデル事業を受け、一挙に整備が進み、昨年新たなフィールドアスレチックや案内看板、QRコード付き樹木板などが加わり、願っていた身近な里山モデルに近づきつつあります。2mを超えるウラボシや雑草、倒木、生き物を寄せ付けられない程のうっそうとした放置林が、継続的な管理作業が実を結び、今ではクモも甲虫も鳥たちも戻り、モグラの通った跡に至る所に見受けられる生物多様性豊かな森へと変貌してきました。整備当初からクワをはじめとするドングリの仲間を残したり、キンカンやカキ、ビフコなど実の成る木や新たなドングリの仲間を増えたりしながら、毎年昔のようなやぶ状態にならないよう里山の維持管理に努めてきました。しかしながら、この四半世紀の間にはいろいろありました。動物園開園記念に植えられていたアカマツは残りわずか2本、最近ではカシノナガキクイムシという害虫が、わるさをはじめ、昨年は大木だったコナラを止むなく伐採しました。また、適度に残していた木々が成長し森が落ち着いてきた一方で、ツツジなどの低木類が限度不足で枯れはじめ、間引き伐採も必要になってきました。これからも自然とのふれあい、共生心を養う身近な里山としての価値を高める努力をして行こうと思います。

ネイチャーゲーム

は、子どもたちにとって単なる遊びではなく、学びの要素がふんだんに入っています。自然とふれあいながら、五感を使って観察し、考え、創造し、仲間と協力することが、子どもたちにとっての貴重な体験となります。現代社会では、デジタル化が進んでいる一方で、自然と接する機会が減少しています。ネイチャーゲームはその盲点を補足し、子どもたちに自然の大切さを伝える素晴らしい手段です。当会でも子どもたちの健やかな成長のために、ネイチャーゲームを取り入れた様々な活動を行っています。写真のように、秋にはクワ拾いや森の多様性をテーマにしたイベント、春先にはシイタケの収穫と土の力持ちである分解者の役割などをテーマにしたイベントを開催しています。イベントに参加した子どもたちは「学校では習わないことを学べてよかった」「家に帰って今日の体験を家族に話したい」「山の中で動き回ることが楽しかった」といった感想や、保護者からは「身近に自然を体験できる場所があるのありがたい」「普段は友達ともゲーム機で遊ぶことが多いが、自然の中で楽しんでいる姿を見れてうれしかった」「保護者自身も参加して楽しかった」といった感想が聞かれました。これからも、自然の不思議や仕組みへの気づき、自分も自然の一部であるという一体感の醸成、共生心を培う活動を展開していきたいと思っています。



ほだ場の管理 (上:施工前・下:施工後)

ほだ場も年数が経過することで腐食します。のいち冒険の森では人と自然をつなげる場として環境学習を行っており、諸事情により伐採したコナラもシイタケのほだ木に活用しています。

竹の伐採処理 (上:施工前・下:施工後)

竹は繁殖力が非常に強く適宜調整していく必要があります。伐採後の竹はチップ状に粉砕し下草の繁殖防止対策として遊具周辺に敷き再利用しています。

風倒木の処理 (上:処理前・下:処理後)

大木や老木は風の影響を受けやすく、倒木が発生した場合は速やかに小切って、よちめ処理を行い、利活用できるものは支柱等に再利用しています。

山の下草刈り (上:施工前・下:施工後)

手入れのできていない場所では木や草が生い茂り木自体の持つ保水力が減少しています。合わせて激甚化する大雨により上記の写真のように根からの崩壊が発生しています。



のいち冒険の森 周辺の季節ごと のお楽しみ

4月



9月末～11月始め



11月～12月



2月～3月



■ご連絡先
香長ネイチャーゲームの会
代表者名 常石 藤
TEL:090-4784-5707
E-mail:mori_kawa_tune@yahoo.co.jp



■のいち冒険の森に関する
お問い合わせ先
香南市 地域支援課
TEL:0887-57-8503
E-mail:chiiki@city.kochi-konan.lg.jp



のいち冒険の森については
左側のQRコードから
ご確認ください

物部川清流保全推進協議会 ③2

「川本来の姿を取り戻すために～環境のために配慮したほうがいいこと～」

令和8年2月追記版



河川工事の手引書を作成しました！

Point

河川環境の特徴と課題

アユをはじめとする水生生物の生息環境を保全する観点から「河床地形」と「河床材料」に着目し、上流部、中流部、下流部の特徴及び主な課題を整理しました。

物部川将来ビジョン

構造物の影響による変化を前提とした、物部川の望ましい姿を「物部川将来ビジョン」として図解し、将来ビジョンの実現を念頭に物部川で工事を行う際に配慮することを整理しました。

環境のための配慮の事例

過去に行われた多自然川づくりの工事の事例から、将来ビジョンに近づいたと思われるものを取り上げました。

川本来の姿を取り戻すために
～環境のために配慮したほうがいいこと～

- 位置づけと目的 …… P.2
- 物部川の河川環境の特徴と課題 …… P.3
- 物部川将来ビジョン …… P.5
- 将来ビジョン実現に向けた環境への配慮 …… P.8
- 物部川の工事における環境のための配慮の事例 …… P.13
- 用語の解説・問合せ先 …… P.20

高知県・物部川清流保全推進協議会

令和8年2月追記版



5 物部川の工事における環境のための配慮の事例

上流部の河床・河床：環境に配慮した護岸復旧と施工前の河床の再生

- 復旧する護岸に用いるブロックについて、環境に配慮したものを採用。
- ブロック積を施工した箇所について、現地採取した巨石等を使用し、施工前の河川環境を再現。
- 上流河床を参考とし河床の縦断形状にも変化を持たせるなど工夫。

復旧前

復旧後

対策後

【環境配慮ポイント①】
◆環境保全型ブロックの採用

（どんなメリットがある？）
・ブロックに空洞や穴があり、元来の植生が回復しやすい。
・壁面に凹凸があり、動物が壁面を上りやすい。

【環境配慮ポイント②】
◆寄石によるみお筋の創出

（どんなメリットがある？）
・河床の流路の復元により元来の河床植生が回復しやすい。
・魚類や水生生物の生息に適した環境ができる。

環境配慮事例ピックアップ！



事例1

環境に配慮した護岸復旧と施工前の河床の再生

（上流部：香美市物部町の事例）

Point

環境に配慮した護岸ブロックを採用

環境保全型ブロックの採用により、植生や動物等の生息環境に配慮。ブロックに空洞や穴があり、元来の植生が回復しやすい。また、壁面に凹凸があることで、動物が壁面を上りやすい。

現地の材料で施工前の環境を再現

現地で採取した巨石等を使用した寄石によるみお筋の創出。河床の流路の復元により、元来の河床植生が回復しやすい。また、魚類や水生生物の生息に適した環境となる。



環境配慮事例ピックアップ！

事例2

横断構造物の魚類等遡上阻害に対する対応

（下流部：香南市野市町の事例）

Point

魚類等の遡上環境を改善

「流速が早い」ことにより、魚類等が遡上しづらいとの課題から、魚道部分に分散型落差工や置石工を設置し、魚類等の遡上環境を改善。流速の低減や流向の多様化のほか、魚類の休息場所となる緩流部を形成した。

新たな魚道の入口を設置

「右岸側に進入した魚類が魚道に進入しづらい」との課題から、新たな水路（魚道の入口）を設置し、進入しやすくなるよう改善した。

5 物部川の工事における環境のための配慮の事例

下流部の河床・河床：横断構造物の魚類等遡上阻害に対する対応

- 床止め工の魚道において、「流速が早い」こと及び「右岸側に進入した魚類が魚道に進入しづらい」ことから魚類等の遡上に支障。
- 魚道部に分散型落差工や置石工を設置し魚類等の遡上環境改善を図った。
- 右岸側から進入する魚類が魚道の入り口を見つけ進入しやすくなるよう新たな水路（魚道の入口）を設置
- 既存の魚道入口についても河床の深掘れを解消。

分散型落差工の役割

- ◆流速の低減と流向の多様化
- ◆魚類休息場所となる緩流部を形成
- ◆水路河床の保護

置石工の役割

- ◆流速の低減と流向の多様化
- ◆魚類休息場所となる緩流部を形成

『多自然川づくり』『水生生物の生息に適した川づくり』の効果がさらに高まるよう、河川管理者、流域自治体の土木・環境分野の実務担当者の業務に活用いただけることを期待しています。

詳細は原本又はHPをご覧ください！



HPはこちら

『RAC川の安全教室』

第1弾

第2弾

水生生物による水質判定



『仁淀川一斉清掃』



仁淀川清流保全推進協議会

仁淀川のこと



『環境学習』

『親子ふれあい交流体験』



川の恵みを
いただきます

ゴミのこと



安全装備のこと

『植樹事業』



『仁淀川スタイル』

Facebook
「ともに生きる
土佐の自然」
で発信中!!



仁淀川
ミニボジウム



仁淀川流域交流会議

って？

仁淀川流域交流会議は、高知市、土佐市、いの町、日高村、佐川町、越知町、仁淀川町の7市町村を構成市町村としており、仁淀川流域の保全と流域圏の活性化を図るため、さまざまな事業を実施しています。

どんなことしているの？

■子どもたちを対象とする自然・生活体験の推進として
親子ふれあい交流体験

「子どもたちと川へ！親子で遊ぶ仁淀川」を
仁淀川漁業協同組合と共催で実施しています。

昨年の様子



■仁淀川流域の地場産業育成、観光振興・清流保全を推進し、個性的で魅力あふれる仁淀川の地域づくりにつながる事業に対して補助を行っています。

令和6年度には

第44回土佐市大綱祭り（8/17開催）



仁淀川 神楽と鮎と酒に酔う（10/5開催）



■仁淀川上下流域住民参加による森林整備・環境保全事業の推進として

国土交通省など諸団体と連携して、仁淀川の清掃など河川美化活動を行っています。また、仁淀川流域山林保全育成の会が主催する植樹事業の後援団体として参加しています。



■問い合わせ

仁淀川流域交流会議

（令和7年度事務局

いの町役場総合政策課内）

☎088-893-1112

仁淀川の“緑と清流”を再生する会

仁淀川クリーン作戦 in 仁淀川町

毎年、5月第3土曜日の午前中、町内の団体に広く呼びかけて実行委員会を作り、川や河原、周辺のごみ拾いや草刈りなどの清掃活動だけでなく、カヌーやSUPの無料体験活動も取り入れ、川をきれいで楽しむイベントとして取り組んでいます。

2024年度 参加者151名、ごみ85kg



2001年11月3日、池川町(仁淀川町)の森や川を昔のような森や川に再生することを目的に、この会の顧問となるアウトドアライターの天野礼子氏や県友釣連盟顧問の松浦秀俊氏、池川地区労、池川町商工会などの有志が集まって結成されました。

森林整備と仁淀川・土居川の再生に向けて

山の保水力や川の水生物の栄養源など、森林が持っている本来の機能を回復させていくためには、スギやヒノキの人工林の間伐推進や針広混交林化が不可欠ですが進んでいないのが現状です。そこで、森の仕事や森林再生、川の再生に関心を高めてもらうために、講演会やシンポジウムを開催してきました。これまでに呼び出した講師は次の方々です。(当時の肩書)

- 福留脩文氏(西日本科学技術研究所長)
- 中島浩一郎氏(岡山県銘建工業社長)
- 速水 亨 氏(三重県速水林業代表)
- 山田寿夫氏(林野庁九州管理局長)
- 大橋慶三郎氏(大阪府指導林家)
- 岡橋清元氏(精光林業代表)
- C・W・ニコル氏(作家、京都大学社会連携教授)
- 竹内典之氏(京都大学名誉教授)
- 柴田昌三氏(京都大学教授)
- 高橋宣之氏(写真家)
- 皆川芳嗣氏(林野庁長官)
- 石川慎吾氏(高知大学名誉教授)
- 天野礼子氏(アウトドアライター)

緑と清流を再生する担い手の育成と地域活性化

☆小中学生の体験活動への協力

池川小5年生の土居川学習



池川中学校鮎友釣り体験



☆地域活性化につなげるために

地域が元気であってこそ川も活かされる!

- 山下一穂氏を迎えての有機農業の勉強会
- 愛媛大学焼畑研究会の皆さんと焼畑の研究
- “仁淀ブルー”の名付け親の高橋宣之氏、NHK高知放送局ディレクターの西川多紀氏、黒笹慈幾氏を迎えて「“仁淀ブルー”のふるさとの歴史と未来を語る」講演会の開催



広見川等農業排水対策協議会

目的

③6

当協議会は、水田の代掻きや田植え等に起因する農業濁水の河川への流出を抑制する活動を行うなど、広見川・三間川等の河川の濁水流出防止に努め、河川の水質保全及び流域農家の河川環境保全向上意識の啓発に資することを目的としている。

活動内容

①濁水対策（石膏資材使用）



石膏資材「俺のカルシウム」

散布当日



～散布2日後～



無散布水田



15kg散布水田

②活動PR



活動PR旗を濁水対策実施田に設置

③濁水パトロール・透視度調査



↑各地点で取水した水

生育調査と今後の課題

令和7年度は、水稲の生育への影響も期待できる資材(硫酸マグネシウム)を新たに供試し、従来のカルシウム資材とともに水稲の調査も実施したところ、濁水抑制効果は確認できたものの、水稲の生育への影響は認められなかった。

また、緑肥(ヘアリーベッチ等)は鋤き込んだほ場において、濁水抑制効果の可能性があり、減肥や土づくり等のメリットが期待できることから、来年度からの実証試験を検討している。



広見川・四万十川 合流地点

川遊びから 川づくりへ!

とくしま吉野川流域で、みんなで行う川づくり文化の構築!

■ 川塾の想い

川遊び活動を始めて15年間、毎年のべ3,000人の方に川遊びの場を提供し多くの川仲間ができました。そしてそんな川好き達と「もっと遊べる川へ。安全に住み続けられる地域へ」という想いから「川づくり」活動を始めました。遊びで川を好きになり、その仲間と川づくりを行うことで、いつまでも「愉快で」そして「安全に」暮らし続けられる地域・文化づくりを目指しています。

■ 川づくり活動

- 1 仲間づくり 吉野川流域ツアー／川づくりフェス
- 2 みんなで川づくり 産官学民も連携
- 3 河川の生態系改善 小さな自然再生／魚類調査

■ 流域で育った子の“いま”

恩返しのような思い

大橋 夏菜子 (28)

むかし

いま

子どもの頃に、徳島の川で毎週末アウトドアやキャンプをしていました。大事な思い出の川を、もっと豊かに面白い場所にして、次の世代の子もたちにも楽しんで欲しいという気持ちで、川づくりに参加しています。鮎喰川にパーブを作った後、次に見たときにたくさんのテナガエビや稚魚が暮らしていたのを見て、やってよかったなという気持ちになりました。



流域治水 # 生物多様性 # 気候変動
ネイチャーポジティブ # ウェルビーイング

小 学4年生から現在にかけて、約15年川に関わり続けてきましたが子供だけでなく、色んな生き方をしてきた大人と関わることができました。そんな大人と川との関わりは、まさに唯一無二でありこれまでの人生で得難いものでした。自分を自分たらしめるこの居場所を、これからの世代にも伝えていきたいです。

むかし

いま

岡村 潮 (23)

自分が自分として 生きていける居場所

Our Goal → 遊べる・暮らせる川をつくる!

特定非営利活動法人 川塾

〒779-3101 徳島市国府町佐野塚字出口5-7
☎080-6385-4200 ✉info@kawajyuku.com

この活動は2025年度独立行政法人 環境再生保全機構地球環境基金の助成金を受けて行っています。



【地域ESD拠点登録企業】 会社敷地の里山環境を活かした環境学習の取組と広がり ③8

株式会社相愛（地域循環共生圏形成事業プロジェクトチーム） 代表：大下宗亮（おおしたそうすけ）・大利卓海（おおりたくみ）

株式会社 相愛とは

株式会社相愛は、地質や測量調査業を事業の柱として成長し、今では自然環境などの地域資源の調査と、それらを活かした産業振興やまちづくりなど、新たな事業を創造してきました。

近年ではローカルSDGs達成に向け、事業を横断するプロジェクトチームを発足させ、新たな取組を生み続けています。

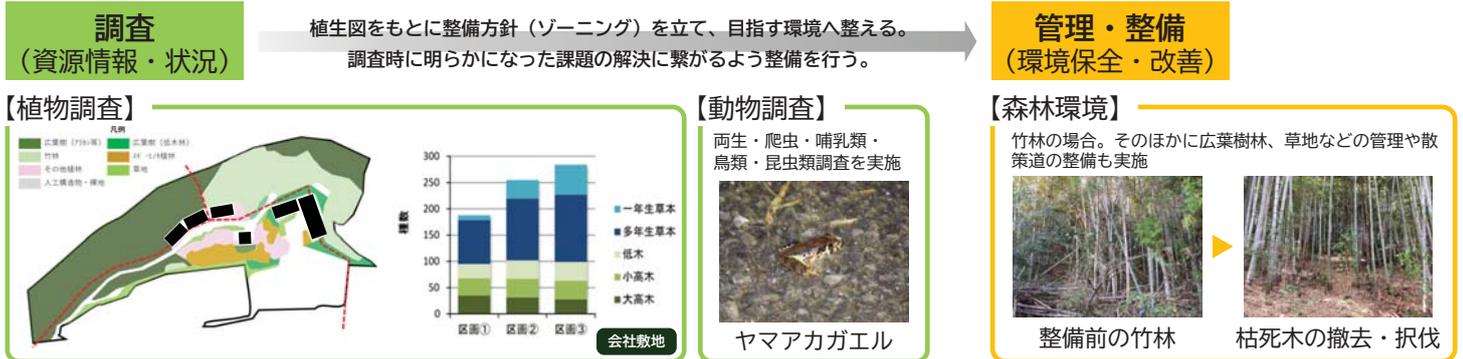


環境調査（魚類他）



まちづくり（ワークショップ）

取組① 調べて／守る 会社敷地をフィールドにした自然環境調査と保全



相愛敷地内の植物調査の結果、103科370種類（6種類が希少種）の植物が確認されています（2017～2018年実施）。また高知市平野部では数が減ってしまった里山にくらす動物が今なお多く確認でき、昆虫では主に森林性と草原性のものが見られます。

取組② 学んで／届ける 知識と経験を地域に届ける「学びの場」

<p>春タケノコ掘り 竹の生態と竹害 エシカル消費 ライフスタイルの変化 火の燃え方（樹種別） 敷地内</p>	<p>夏バナナトラップ観察会 身近な昆虫 里山の生物多様性 昆虫と自然環境 危険な生き物 敷地内</p>	<p>秋食べられる植物 身近な食べ物 豊かな食生活と知恵 危険な植物 災害時の非常食 敷地内</p>	<p>発信：社内展示 飼育及び生体展示 写真展示 ポスター展示 サイン（看板）設置 敷地内</p>	<p>発信：研究・啓発活動 環境調査 論文執筆 学会発表 ポスター発表 大学等</p>
--	---	---	--	--

取組③ 広がる／つながる 地域と共に歩む「協働のカタチ」



アンケートのお願い

この会をより良いものにするため、アンケートにご協力お願いします。

会場でお渡ししたアンケート用紙にご記入いただくか、または、

下記アンケートフォームからでもご回答いただけます。

<https://forms.gle/HEtEdDuidfg2reiv9>

